

付支那側ヨリ回答アリタル次第ハ不取敢及電報置タル処右
回答全文写並同訳文別紙送付ス御査閱相成度
本信写送付先 在支各総領事

(付屬書)

外交部節略

准八月三十日

節略、閱悉一切、此次

貴国政府派兵膠濟沿線等処開動、迭經本部以此舉侵犯中国
主權、易啓人民誤會、嚴重抗議在案、現

貴国政府決將所派軍隊一律撤退、本国政府及人民深表快
慰、至保護外僑、本国政府自當隨時隨地、始終尽力負責、
深信

貴国政府了解此旨、不至再有踰越範圍之舉動也、相応奉復、
即希查照為荷

外交部

八 日中通商条約改訂交渉

607 昭和2年1月20日

幣原外務大臣より
在中国芳沢公使宛 (電報)

通商条約改訂非公式商議開始に関する対処方

針について

付記 一月八日起草同十九日決裁

日中通商条約の改訂に関する根本方針(高裁案)

本省 1月20日後発

第五〇号

貴電第九二号ニ関シ

二十一日非公式商議開始方異存ナシ尚我方ニ於テハ承認問
題ニ触レサル限り會議ノ形式等ハ此際深ク介意セサル所存
ニ付右ノ御含ニテ館員帯同其他一応ノ挨拶ヲ述ヘラルル等
状況ニ応シ程ヨク御措置アリ度シ尚曩ニ重光携行ノ改訂試
案ニ付テハ目下關係省ト協議中ニテ未タ決定セサルニ付追
テ何分ノ義申進スル迄ハ改訂ノ實質問題ニ付テハ適宜先方
ノ意向ヲ探ルニ止メ我方ノ態度ヲ「コムミット」セサルコ
トト致シタキモ談合ノ模様ニ依リ必要アラハ前記試案第一

中華民國十六年九月十三日

(訳文)

覚書

八月三十日付覚書委細了承。今般貴国政府カ兵ヲ派シ膠濟
鉄道沿線等ニ出動セシメタルニ依リ屢々本部ヨリ本件ハ支
那ノ主權ヲ侵犯シ人民ノ誤解ヲ惹起スルモノナリトシ嚴重
抗議シ置キタル処、貴国政府ハ右派遣軍隊ヲ一律ニ撤退ス
ルコトニ決セルハ本国政府及人民ノ深く満足スル所ナリ。
外国居留民ノ保護ニ至リテハ本国政府ハ当然隨時隨所ニ終
始責任ヲ負フヘキニ付貴国政府モ此ノ趣旨ヲ了解セラレ再
ヒ範圍ヲ踰越スル舉動ニ出ツルニ至ラサルヘキヲ深ク信
ス。右御承知相成度、此段回答ス。

民國十六年九月十三日

外交部

項及第二項ノ原則ノミハ貴官ノ私見トシテ開示セラレ差支
ナシ

(付記)

高裁案

(一月八日起草一月十九日決裁)

日支通商条約ノ改訂ニ関シテハ未タ支那側ヨリ具体案ノ提
示ナキ処条約所定ノ改訂期間モ既ニ相当經過シタル事情並
其ノ後ニ於ケル支那時局ノ推移等ニ鑑ミ此ノ際速ニ条約改
正ニ関スル我方根本方針ヲ決定スル必要アリト認メラルル
ニ付曩ニ關係局課ノ間ニ審議ノ結果作成シタル左記試案ニ
基キ關係省間ノ協議ヲ進ムルコトト致シタク右仰高裁

記

一、現行条約ノ改訂ハ大体ニ於テ一般通商航海条約ノ原則
ニヨリ相互平等ノ基礎ニ依リ之ヲ行ヒ治外法權撤廢及関
稅自主權回復ニ対スル支那ノ國民的希望ヲ速ニ實現セシ
ムル為規定ヲ設クルコト
二、日支兩國間ノ緊密且特別ナル關係ニ鑑ミ条約關係ノ急

激ナル変更ニ因リ兩國ノ利益カ著シク阻碍セラルルコト
ナキ様暫行ノニ適當ノ調整ヲ加フルコト

三、前項ノ調整ハ左記大綱ニヨルコト

(一) 締約国民ノ地位ニ付テハ

(甲) 治外法権撤廃ニ付

(一) 治外法権ハ条約改訂ト共ニ支那全土ニ互リ全般的ニ
撤廃スヘキモ支那ノ希望ニ依リテハ地域ヲ限リテ撤廢
スルモ妨ケサルコト但シ撤廢シタル地域ニ於ケル帝國
臣民ノ裁判ニ付テハ左記ノ保障ヲ取付クルコト尤モ前
記ノ保障ハ支那側ノ自発的宣言ニ依ルモ差支ナキコト
(a) 民事事ノ実体法、其手続法及裁判所構成法ヲ完成実
施スルコト

(b) 帝國臣民ノ原告又ハ被告タル事件ハ支那ノ新式裁判
所タル審判庁ヲシテ管轄セシメ之ヲ收容スル監獄及
看守所ヲ新式ノ設備ノモノニ限定スルコト但シ新式
裁判所ノ存在セサル地方ニ於テハ日本臣民ノ希望ニ
依リ軍事裁判所ニ非サル其ノ他ノ裁判所ヲシテ管轄
セシムルモ差支ナキコト

(c) 撤廢ノ地域ハ支那版圖ノ全部ニ互ルモ共同居留地、

但シ此等ノ事項ニ付テハ出来得ル限り相互ノ規定
トナスコト

(ロ) 許可營業ノ範圍ヲ可成制限シ且ツ本邦人ニ対シ差別
待遇ヲ為サシメサル様適當ノ保障ヲ為サシムルコト
(國際連盟經濟委員會決定一九二五年六月理事會勸
告参照)

(ハ) 支那人労働者ノ本邦入国ニ付テハ經濟上社会上ノ実
情ニ鑑ミ適當ノ制限ヲ為シ得ルノ自由ヲ留保スルコト
共ニ本邦人特ニ鮮人労働者ノ支那入国ノ自由ヲ著シ
ク制限セシメサル様措置ヲ講スルコト (別案甲參
照)

(ニ) 日本臣民ニ対スル不当課税ノ救正ニ関シ支那政府ヲ
シテ何等カノ保障ヲ約セシムルコト (別案乙参照)
(三) 關稅事項ニ関シテハ大体ニ於テ關稅特別會議ニ於テ表示
セラレタル支那及關係國ノ意向ニ從ヒ

(甲) 輸入税率ニ関シテハ

(イ) 支那ノ關稅自主權ヲ認メ國定税率ノ急速実施ヲ承認
スルト共ニ右國定税率ノ実施ト同時ニ実施セラルヘ
キ特定品ニ關スル互惠税率ヲ協定スルコト

專管居留地、滿鉄付屬地及公使館区域ニ於ケル現行
行政制度ハ当分ノ内之ヲ維持スルコト

(注) 右ノ地域ニ居住スル帝國臣民又ハ支那人ニ
對スル支那裁判所ノ司法事務ノ執行ニ付テ司法上
ノ協力ヲ取極ムルコト

(d) 帝國臣民ハ自國民タル弁護士ヲ訴訟代理人トシ又ハ
其ノ適當ト認ムル通訳ヲ帶同スルヲ得ルコト

(e) 帝國臣民タル刑事被告人ハ公安ヲ害セスト認メラル
ル限り常ニ保釈ヲ許サレ自國民其ノ他ノ者トノ面會
又ハ通信ヲ許サルヘキコト

(f) 帝國臣民ニ對スル不当ナル司法警察及裁判ニ對スル
救正ニ關シ支那政府ヲシテ何等カノ保障ヲ約束セシ
ムルコト

(乙) 入国、居住、旅行、營業、財産ノ取得占有処分ニ付日
支兩國民間ノ經濟提携ヲ促進スル趣旨ニ依リ相互ノニ
廣キ範圍ノ自由ヲ保障スルコトトシ

(イ) 治外法権ノ撤廢後ニ於テハ本邦人ニ對シ内地開放ヲ
認メシメ且土地所有權ノ外農業、林業、鋳業、漁業
其ノ他ノ原始産業ニ従事スル權利ヲ認メシムルコト

(ロ) 國定税率ノ實施ニ至ル迄ノ暫行期間内ニ於テ均一稅
率ニ依ル増率ヲ避クル為差等稅率ノ實施ヲ認ムルコ
ト

(ハ) 以上各項ノ規定ハ最惠國條款ニ依リ關係各國ト同時
ニ之ヲ實施スルコト

(ニ) 前記暫行稅率及國定稅率ノ實施後ニ於テハ輸入稅ヲ
納付シタル輸入品ニ對シ一切ノ内地通過稅其他同種
ノ負擔ヲ課セサル旨ヲ相互ノニ保障スルコト

(乙) 輸出稅ニ付テハ暫行期間内ニ於テハ現行稅率以上ニ増
率セサルコト並國定稅率ノ實施後ニ於テハ之ヲ廢止ス
ルコトヲ保障セシムルコト

(丙) 輸出入禁止制限ニ付テハ輸出入自由ノ原則ヲ認メ成ル
ヘク禁止制限ノ範圍ヲ縮小スル趣旨ニテ相互ノ規定
ヲ設クルコト

(三) 船舶關係ニ付テハ大体ニ於テ一般條約ノ規定ニ準シ相互
ノ規定ヲ設ケ内水航行權及沿岸貿易ノ開設ヲ相互ニ保障
スルコト (別紙丙參照)

(別案甲)

支那人労働者本邦入国居住制限方法

一、条約ニ於テ兩國国民ノ入国ニ付相互ニ最惠国待遇ヲ又居住民及營業ニ付国民待遇又ハ最惠国待遇ヲ相互ニ保障スルト共ニ

二、支那側ヲシテ自發的宣言ノ形式ヲ以テ支那政府ハ日支兩國ノ經濟上社会上ノ実情ニ鑑ミ支那人労働者ノ日本入国並労働ヲ成ルヘク制限スル為日本政府ト協同シテ有効ナル措置ヲ執ルヘキ旨ヲ声明セシムルコト
尤モ右不可能ノ場合ニハ支那人労働者ノ日本入国並労働ノ問題ニ関シテハ日本人労働者ノ支那入国並労働ノ問題ト併セテ他日ノ協議ニ讓ルヘク右協議成立ニ至ル迄ハ暫ク現状維持ニ依ルヘシトスルコト

(別案乙)

不当課税ノ救正ニ關スル保障方法

一、条約ニ於テ相互ニ租税手数料課金又ハ貢納ニ付内国民又ハ最惠国民待遇ヲ規定シ且強制兵役及一切ノ強募公債又ハ軍用賦斂若ハ取立金ノ免除ヲ規定スルコト
二、右ノ規定ニ關連セシメ支那ヲシテ自發的ニ左ノ趣旨ノ宣言ヲ為サシムルコト
支那側政府ハ其国内ニ於ケル一切ノ租税其ノ他ノ負担ハ

スルカ如キコトヲ防止スル為右規定ノ外兩締約国ハ現ニ開放セル前記ノ貿易地ヲ特別ノ理由ナキ限り外国船舶ニ對シ閉鎖スヘカラサルコトヲ約スルコト

608 昭和2年1月21日 在中国芳沢公使より 幣原外務大臣宛(電報)

通商条約改訂會議開会について

北京 1月21日後着 本省

※通第一号(日支通商条約改訂會議)

往電第九二号ニ關シ

二十一日非公式會議ヲ外交部ニ於テ開會シ先ツ顧外交總長ヨリ別電通第二号ノ如キ挨拶有リ之ニ對シ本使ハ別電通第三号ノ如ク答ヘ次テ會議ノ「プロセヂュア」問題ニ付打合セヲ了セリ

609 昭和2年1月22日 在中国芳沢公使より 幣原外務大臣宛(電報)

通商条約改訂交渉の進行方法および用語等に

ついて(第一回會議議事要領)

北京 1月22日後着 本省

一般ニ公表施行セラルル税率及徵收手續ニ依リ之ヲ徵收スルコト並課税上不当ノ行為ニ因ル損害ノ救正ヲ確保スル為立法上行政上其他ノ必要且有効ナル措置ヲ執ルヘキコトヲ声明ス

(別紙丙)

船舶並航海

一、船舶關係ニ付テハ大体ニ於テ一般條約ノ規定ニ準シ相互ニ規定ヲ設クルコト

一、沿岸貿易ハ相互ノ基礎ニヨリ之カ開放ヲ保障スルコト而シテ支那ニ於ケル本邦船舶ノ内水航行權ヲ確保スル為別ニ公文交換又ハ議定書ニ依リ兩締約国ハ右沿岸貿易ノ意義ヲ最モ広キ範圍ニ解釈スヘク即現ニ外国船舶ノ為ニ開カレ又ハ將來開カルコトアルヘキ開港場、立寄港(port of call)又ハ旅客上陸地(passenger stage)等貿易地ト認メラレタル一切ノ場所(recognized place of trade)ノ間ノ航行ヲ意味スルモノナルコトニ同意スヘキ旨ヲ規定スルコト
尚支那ニ於テ將來開港場、立寄港特ニ内水沿岸ニ在ル立寄港以外ノ内地貿易場ヲ閉鎖シテ内水航行ノ範圍ヲ縮小

※通第四号 本省 1月22日後着

往電通第一号ニ關シ

議事要領左ノ如シ

(一)日支兩代表ニ於テ既電ノ挨拶ヲ交換シタル後先ツ會議ノ「プロセヂュア」ノ問題ヲ議スルコトトナリ重要問題ニ付テハ總テ兩代表ノ間ニ討議ヲ行ヒ細目ニ至リテハ下僚ヲシテ審議セシム可ク委任状ノ問題ニ付顧ハ此ノ問題ニ付テハ最初交換スルト商議進行シタル後交換スルトノ二案アル処何レニスヘキヤト尋ネタルニ付勿論後者トシ大體商議纏リタル時ニ委任状ヲ相互ニ提出シテ商議ノ結果ヲ確認スル事然ルヘシト答ヘ其通り纏リタリ

(二)開會期日及議題ノ点ニ付テハ大體會議ノ度毎ニ之ヲ決行シテ差支ナカルヘキ事ニ決定シ議題ニ關連シ本使ハ可成早ク支那側條約修正案ノ提出ヲ求メ政府ノ之ニ對スル意見ヲ請訓シ度キ旨ヲ述ヘタルニ對シ外交總長ハ支那側提案ハ大體出来上リ居ルニ付其内送付スヘキモ先ツ重要ナル問題ニ付順次兩代表ノ間ニ審議ヲ進メテ其狀況ニ依リ適宜條約ノ起草ヲナス事便宜ナルヘキニ付次回會議(來

週金曜日)ニ於テ先ツ関税自主権ノ問題ヲ討議シタキ旨ヲ述ヘ本使ハ大体之ニ異議ナキモ支那側提案ニ付テ本國政府ニ充分研究ノ時間ヲ与フル為メ成ルヘク早ク之ヲ承知シタキ旨ヲ述ヘ顧ハ関税自主權問題ニ関スル支那側覺書ヲ多分來週月曜日迄ニ本使ニ送ル事カ出來ルナラムト述ヘタリ

(三)用語ニ付テハ引続キ英語ヲ用フル事ニシ公表文ハ其都度書記官ニ於テ打合セルコトニ決定シタリ

尚會議ノ終リニ於テ本使ハ自分ノ挨拶中ニ述ヘタル通り條約改正ノ此ノ重大ナル仕事ヲ完成スル為ニ充分ノ努力ヲスルノ決心ヲ有スル次第ニシテ今日ノ第一回ノ會議カ充分満足ナル成果ヲ収メタル事ニ對シ祝意ヲ述ヘタルカ顧ハ我々ノ仕事ハ実ニ兩國間ノ關係ニ新紀元ヲ齎スヘキ重要ナル仕事ニシテ第一回ノ會議カ斯ノ如ク円満ニ且迅速ニ進行シタルハ將ニ將來ノ交渉ニ對シ成功ヲ祝福スルモノアルカ如シト述ヘテ満足ノ内ニ會議ハ終了セリ

尚又本日ノ會議兩代表ノ挨拶及本日ノ會議ニ於テ「プロセジユア」ノ問題決定セルコト及次回ハ來週金曜日ナル事ノ簡單ナル公表文ヲ發表スル事ニ決定セリ新聞公表ハ其都度

對シテハ素ヨリ異存ナキノミナラス假令新條約實施前ト雖條約交渉成立後ニ於テハ適宜其ノ實現ヲ考慮スルニ吝ナラサルヘキ旨ヲ言明シ度キ処此点ニ関スル御意見御回訓ヲ請フ

611 昭和2年1月23日

在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

通商条約改訂交渉において中国側穩健分子の

要望に好意的に對処方意見具申

北京

發

本省 1月23日後着

※
通第九号

関税會議以來支那ニ於ケル時局急進シ各國ノ對支政策ニ於テモ重要ナル變更ヲ見既ニ支那ニ對シ從來ノ如ク重要問題ニ付共同政策ニ出ツルコト能ハサルニ至リタル次第ニテ特ニ英國ノ如キハ從來維持シ來レル條約上ノ重要ナル權利ヲモ放棄スルノ用意アル次第ナルカ條約關係ヲ變更スルコトナクシテ必要ニ応シ實際の方法ニ依リテ処理スルコトハ英國ノ如ク長江其ノ他ノ地ニ於テ差迫リタル必要ニ迫ラレ居ル國ハ兎ニ角トシテ我國ノ如キハ斯カル權道ニ出ツルノ要

特ニ電報ノ要ナルカヘシト思考スルモ然ラサル御意向ナルニ於テハ回電アリタシ

610 昭和2年1月22日

在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

付加税徴収に對する我方の態度言明の可否に

ついて

北京

發

本省 1月22日後着

※
通第七号

華府付加税問題ニ付テハ我方ハ他ノ列國ト根本的ニ其ノ見解ヲ異ニシ居レトモ要スルニ我カ主張ハ現在ノ狀況ニ於テハ之カ徴収ハ違法ナルニ依リ容認シ難シト云フニアリテ適法ナル手續ヲ經ルニ於テハ必スシモ其ノ趣旨ニ反對スル意向ニ非スト思考セラルル処今回ノ通商條約改訂交渉ニ際シテハ必ス此問題モ支那側ヨリ提議セラルル場合アル可ク其ノ際ニハ我方トシテハ通商條約改訂ノ商議ニ依リテ決定スヘキ稅率ヲ新條約實施後ニ徴収スルコトニ付テハ素ヨリ異議ナキニ依リ前記付加税ノ徴収モ右條約ノ決定スヘキ新稅率ノ範圍内ナルニ於テハ新條約實施後之ヲ徴収スルコトニ

ナク飽迄正規ノ手續ニ依リテ對支關係ノ改善ニ努力スルコト素ヨリ当然ナリ去リナカラ從來主張シ來レル關稅會議ノ再開ニ関シテハ今後共貴電第二九号ノ御趣旨ニ副フコトニカムヘキモ實ハ支那側ニ於テモ會議再開ニ望ミヲ繫クモノナク(顏惠慶、王克敏其ノ他ノ有力者モ昨今ノ意見ハ同様ナリ)大總統令ニ於テ暫定稅率ニ関シ關稅會議ニ於テ之ヲ定ムヘキコトヲ述ヘタルハ要スルニ支那側ニ於テ責任通レノ処置ト見ラレ居ル狀況ニシテ又各國側ニ於テモ關稅會議ノ再開ヲ真面目ニ考ヘ得ルモノナキ有様ナルヲ以テ斯ル狀況ノ下ニ支那側其ノ他ヲシテ會議再開ヲ申出テシムル事ハ遺憾乍ラ不可能ノ事ナリ

然ルニ幸條約改正ノ交渉ノ端緒開カレタルヲ以テ此ノ交渉ニ於テ稅率其ノ他ノ問題カ審議サル事トナリ茲ニ關稅會議ノ場合ノ如ク列國ト協調的ニ非スシテ日支ノ間ニ單獨ニ行ヒ得ヘキ機會ヲ得タル次第ナリ其ノ際ニ於テハ現在南方ニ於テ「ソビエト」露國ヲ「バック」トシ居ルカ如キ遣方ニ對シテハ固ヨリ何等同情ヲ寄スヘキ限ニ非サルモ支那一般ノ要望ト認メラルヘキ比較的健全ナル分子ノ希望ニ對シテハ可成好意ヲ以テ此ノ際之ヲ迎フル必要有ルヘク之等日

本ノ支那ニ対スル同情ノ表示ハ右条約改正商議ノ機会ニ於テ漸次具体的ニ之ヲ行フ事得策ト思考セラルルニ付此ノ点ニ付充分考慮ヲ尽サレン事ヲ請フ（往電通第六号参照）尚二・五付加税ニ付テハ他国ニ於テ全然吾ト立場ヲ異ニスル事明カトナリタル今日本電冒頭ノ趣旨ニテ遲滞ナク抗議ヲ為シ充分我立場ヲ明カニシ置ク可キモ往電通第七号ノ通りノ措置ニ関シテハ之亦御考慮頂キ度シ

612 昭和2年1月24日 在漢口高尾総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

日本の北京政府との通商条約改訂交渉に關し

陳友仁の反対意向表明について

漢口 本省 1月24日後着 発

第六〇号

一月二三日午後陳友仁ハ本官ノ來訪ヲ求メ北京來電ニヨレハ日本政府ハ日支条約改訂ノ交渉ヲ開始セラレタル由ナルカ自分ハ甚タ遺憾ニ存ス尤モ北京政府トノ間ニ右ノ如キ交渉ヲ為スハ白耳義既ニ先例ヲ作リタルモ之ニ對スル國民政府ノ方針ハ過日來漢セル白耳義參事官ヨリ条約改訂及天津

セラレタル結果ハ仮令何等協定成立スルモ其内容如何ニ拘ハラズ自分等ニ於テ承認スル能ハサルノミナラス延テハ折角良好ナル日本ト南方支那トノ關係ヲ打破スル無キヲ保シ難シ蓋シ自分等ハ其場合全力ヲ尽シテ日本政府ノ新對支政策ヲ高調シ日本カ南方ニ對シ何等敵意無キヲ説得スヘシト雖恐ラク効果ナカルヘク排日運動ノ再燃スヘキハ火ヲ見ルヨリ明カナリ今ヤ國民政府又ハ北京政府ノ内何レノ一方カ支那ヲ支配スヘキヤノ瀬戸際ニ在ル際何等実力無キ北京政府ヲ相手トセラルル事ハ日本ノ支那ニ對スル全般ノ利害關係ヨリ考慮シ甚タ不得策ナルヘキト共ニ國民政府トシテモ何國ヲ問ハス条約改訂ノ如キ重要問題ヲ一地方政府タル北京ノ偽政府トノ間ニ交渉締結セラルル事ハ甚タ心苦シキ次第ナリ右様ノ事情篤ト御考量ノ上極秘トシテ本國政府ニ傳達願ハレマシクヤト申述ヘ何等圧迫カマシキ不遜ノ態度ヲ示ス事無ク単ニ自分等ノ希望ニ過キサル旨ヲ繰返シ申添ヘタリ

右ニ對シ本官ハ北京ニ於ケル交渉ニ関スル電報接到以前ナリシト事ノ性質上何等言及スルヲ避ケ單ニ御申出ノ件ハ篤ト考量致スヘシト答ヘ別レタルカ如何ニ処置致スヘキヤ何

居留地返還問題ノ内話アリシニ對シ自分カ答ヘタル処ヲ明二十四日發表致ス考ヘナルカ茲ニ予メ貴官ノ御參考迄ニ差上クヘシトテ別電第六一号ノ通り写ヲ手交シ更ニ語ヲ續ケ日本ノ条約談判開始ニ就テモ一般聲明（之モ同時ニ其写ヲ手交セラレタル）^(A.P.)往電第五九号ノ前文中ニ北京政府 local and illegal ト何等条約改訂ノ交渉ヲ open and complete スル外國政府ハ國民政府ニ對シ「アンフレンドリー」ナリト認ムヘキ旨ヲ付記スル考ナリシモ今ヤ日本ニ對スル自分等國民政府ノ感情ハ極メテ良好ニシテ又兩國ノ間ニハ特別ノ親密關係存セサルヘカラサルヲ知ルカ故ニ右ハ見合セタル上今日特ニ來訪ヲ求メ日本政府ニ對スル自分等ノ wish ヲ申述ヘルコトニセル次第ナルカ右ハ單ニ希望ニシテ決シテ demand 又ハ claim 等ニアラサル点ヲ諒解セラレタシト特ニ注意ヲ加ヘタル上國民政府ノ對外方針ハ一般聲明ノ通ニシテ更ニ日本トノ間ニハ特ニ協定稅率ニ依ル通商条約ヲ締結致度キ考ヲ有スル旨ハ既ニ佐分利局長トノ間ニ非公式ニ内談濟ナル次第モアリ

然ルニ現下ノ情勢ニ於テ自分等ノ全然承認セサル一地方的且非合法的ナル北京政府トノ間ニ日本カ改訂ノ交渉ヲ開始

分ノ儀御電訓ヲ請フ

613 昭和2年1月25日 幣原外務大臣より 在中国芳沢公使宛（電報）

通商条約改訂交渉内容の國民政府側への通知

方法について

本省 1月25日發

通一号

貴電通第五号ニ関シ支那南方政府トノ連絡關係ハ此際在支各領事宛貴電合第三四号ノ程度ニテ可然ヤニ思考スルニ付今後共會議ノ模様ハ貴方ノ裁量ニ依リ各總領事及主ナル領事ノ合迄ニ通報セラルルト共ニ在漢口及廣東總領事ヲシテ必要ニ応シ南方官憲其ノ他ニ對シ然ルヘク説明セシメラルルコトニ止メラレタシ

廣東、漢口ニ転電アレ

614 昭和2年1月25日 幣原外務大臣より 在中国芳沢公使宛（電報）

通商条約改訂の各項目を一括審議するため

国側修正案全部の即時提出を要求すべき旨訓

令

本省 1月25日発

通二号

貴電(六〇九文書)通第四号ニ関シ

一、支那側ニ於テハ彼我両代表ノ間ニ個々ノ問題ニ付一ツ一ツ審議ヲ進メテ決議又ハ条約文ノ起草ヲ為サムトスル意向ナル趣ノ処御承知ノ通り會議ノ議題ハ互ニ相関連シ居リ一括シテ之ヲ觀察シ孰レヲ譲リ孰レヲ固守スヘキヤ充分考慮シテ我態度ヲ決シタク全部ヲ知ラサル前ニ問題毎ニ態度ヲ宣明スルコトハ交渉上極メテ不利益ナリ此ノ点御氣付トハ存スルモ既ニ主張セラレタル通り独り関稅自主權問題ノミトセス可成速ニ支那側条約修正案全部ノ提出ヲ求メラレ度シ

二、用語ヲ英語トシタルハ本會議ヲ以テ全然私的會談トシ置カムトノ御考慮ニ出ツルモノトモ推察セラルルカ從來日支ノ重要交渉ハ日支語ニテ會議シ居リ壽府ニ於ケル山東會議ハ特殊ノ必要ニ基ク例外的ノ事例ニシテ此ノ特例ヲ踏襲スルハ本邦世論ニ於テモ種々批評ヲ招ク処ナキニ非ス就テハ特ニ重要ナル事情ナキ限り従前ノ例ニ依リタキニ付折返シ貴見回電ヲ乞フ

⁽¹⁾Memorandum.

Under existing treaties, Japan enjoys in China the special privileges of a unilateral treaty tariff.

Tariff autonomy is an essential sovereign right which is not to be curtailed except by bilateral engagements on the strict basis of mutuality and reciprocity.

Its exercise is essential to the promotion of the economic welfare or industrial prosperity of a nation. To place the finances of a state on a sound basis, freedom of action in regulating its Customs duties is also necessary.

To-day the economic interest of different nations are so interwoven that, without the right of tariff autonomy, no sound fiscal policy can be evolved by any state harmonise its own economic interest with those of the neighbour states.

⁽²⁾It was for these reasons that the question of the restoration to China of her tariff autonomy was brought up first at the Paris Peace Conference of 1919,

三、新聞公表ハ特ニ電報ヲ要セサルニ付其都度連合ニ交付セラレ度シ

615 昭和2年1月26日 在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

関稅自主權に關する外交部覚書送付について

別電 一月二十六日着在中國芳沢公使より幣原外務大臣宛通第一一号
臣宛通第一一号
関稅自主權に關する外交部覚書

北京 發
本省 1月26日前着

通第一〇号

(六〇九文書)
往電通第四号ニ関シ

自主權ニ關スル外交部覚書ハ漸ク火曜日夕刻別電通第一一号ノ通り送付シ越シタリ

(別電)

Peking

Received Jan. 26th a. m.

Gaimudaijin Tokio

Tuu No. 11

later at the Washington Conference of 1921-1922, and more recently at the Special Customs Tariff Conference at Peking.

It is happy to note that Mr. Eki Hioki, Chief Delegate of Japan to that Special Conference, had in his speech delivered at its opening session held on October 26th, 1925, expressed the willingness of the Japanese Delegation to consider the question of tariff autonomy sympathetically, helpfully, and in the friendliest way. Subsequently the Japanese Delegation at the 4th meeting of Committee held on November 19th, 1925, also endorsed the resolution in which China's right to enjoy tariff autonomy was recognised, the tariff restrictions contained in existing treaties were to be removed, and the Chinese national tariff law was to come into effect on January 1st, 1929.

⁽³⁾It is therefore suggested to incorporate into the new treaty now under negotiation the following draft article by which practical effect will be given to the

principle of tariff autonomy already recognised by the Japanese delegation, and equal treatment will be accorded to Chinese and Japanese alike in the matter of customs tariff with a view to promoting their mutual interest. The draft article runs thus:

The two governments agree that all matters concerning customs duties shall be governed exclusively by the national legislation of each. In no case, however, shall any article, the produce of manufacture of China, be charged, upon its importation into Japan, higher import duties than those payable by Japanese subjects on the like article. Nor shall any article the produce of manufacture of Japan, be charged, upon its importation into China, higher import duties than those payable by Chinese citizen on the like article.

Yoshizawa.

616 昭和2年1月26日

在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

関税自主権に関する中国側提案について

(三)之ヲ要スルニ我方トシテハ関税会議中一九二五年十一月十九日ノ決議ニ何等逆行スルノ意向毫無キノミナラス税率ニ関スル特別ノ協定成立スルニ於テハ大体ノ所条約中ニ関税自主即時回復ノ趣旨ノ規定ヲ挿入スルニ異存ナキ意向ナルモ之等ノ諸点ヲ考量スルニハ先ツ条約全体ニ関スル支那側腹案ヲ承知シタル上ニ非サレハ言明シ難キ処第一回會議ニ於テハ右腹案ニ付不日本使ノ閱覧ニ供シ差支ナシトノ旨ヲ述ヘラレタル次第ニテモアリ就テハ右腹案ヲ承知シ度シトノ趣旨ニ依リ条約全体ニ対スル先方ノ意向ヲ突止メル意向ナリ

大体右ニテ差支ナキヤ折返シ御回電アリ度シ

617 昭和2年1月26日

幣原外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

付加税に関する言明差控え方について

本省 1月26日後発

第七四号

貴電第七号ニ関シ

本件付加税ノ承認ハ関税条約所定ノ手續ヲ踏ムヲ要ストスルコト我方ノ従来一貫セル主張ナル処目下本件ハ往電第六

北京 1月26日後着
本省

※
通第一二号
往電通第一〇号ニ関シ

(一)支那側提案ハ要スルニ関税自主権ノ即時回復ヲ目的トスルモノニシテ大体一九二一年五月ノ独支協定第四条(条約集六九八頁)ヲ採用セルモノナリ(尤モ原産地ヲ締約国ニ限リタルハ独支条約ニ比シ範圍狭シ)支那側提案ニ於テ國民待遇ヲ選ヒ従来ノ条約中常ニ規定セラレタル最惠國待遇ノ文句ヲ欠キ居ルハ特ニ注意ニ値ス

(二)関税ノ規定ハ国定税率ヲ基礎トスルハ勿論ナルカ先ツ支那側ニ如何ナル国定税率ノ用意有ルヤヲ質問シ且日支間特殊ノ通商經濟關係ニ顧ミ支那側カ既ニ口約セル互惠税率ノ問題ヲ本會議ニ於テ取極ムルノ用意有リヤ又税率ノ問題ニ付テハ特ニ他ノ如何ナル国ヨリモ互ニ不利益ノ地位ニ置カレサル事ヲ要スルニ付単ニ内國民待遇ニ満足シ得サル次第ニシテ最惠國待遇ヲ如何ニスル意向ナリヤ釐金撤廃ニ関スル支那側ノ措置如何其他関連セル諸問題ニ付先方ノ説明ヲ聴取スヘク

一及第七二号^(六五八文書)ニテ御承知ノ通列國側トノ間ニ主義ノ問題トシテ大ニ争ヒツツアル次第ナレハ此際御来示ノ言明ヲナスコトノ面白カラサルハ直ニ御看取ノコトト存ス將又本件付加税ハ仮令今次ノ通商条約改訂會議ニ於テ決定スヘキ新税率ノ範圍内ニ属スルモノニテモ兩税率ハ全然其ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ御来示ノ言明ニヨリ彼此相關連セシムルハ独リ問題ヲ紛糾セシムルノミナラス我方ニ於テ如何ニモ窮シタルカ如キ感ヲ与ヘ又新税率貫徹ノ為ニモ不利益ナルヤニ思考セラル旁々本件付加税ノ承認問題ハ関税条約ノ実行トシテ今後適當ノ機會ニ別ニ考量スルコトトシ此際ハ御来示ノ言明ヲ差控ヘラルルコトト致度シ

618 昭和2年1月29日

在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

関税自主権提案に対する質疑応答および改訂案全部の提示要求について(第二回會議議事要領)

要領)

北京

本省 1月29日前着

※
通第一五号

第二回會議々事要領

(一)自主権問題ニ付テハ願ヨリ支那側覚書ニ対スル日本側ノ意向ヲ承知シ度キ旨申出タルニ対シ本使ハ大要左ノ如ク述ヘタリ

支那側ノ覚書ニ付テハ未タ充分政府ト往復ノ時間ナキニ付日本政府ノ意向ナリト思ハルル趣旨ヲモ含ミ本使一己ノ意見ヲ開陳スヘシ自主権回復ニ関スル支那ノ国民的希望ニ対シテハ日本ハ充分ノ同情ヲ有スルモノナル事ハ関稅會議開會以來ノ日本側態度ニ依リテ御承知ノ通ニシテ今日ト雖モ何等変リナシ之ト同時ニ日支間ノ地理上貿易上乃至其他ノ關係ハ他國ト異リ非常ニ密接且重要ナルヲ以テ此關係ヲ調節スルカ為ニハ日支兩國ノ利益ノ為メニ種々ノ方法ヲ講究スルノ必要アル処自主権問題ト云フモ之ニ関連スル種々ノ問題ニ付テモ先双方ノ意見ヲ明ラカニシ置ク必要アルニ依リ本使ハ差当リ特ニ重要ナル數箇ノ問題ニ付質問シ度キ事アリ

第一、支那側提案中ニハ國定稅率ニ言及シアル処國定稅率ノ制定ハ今日如何ナル程度迄進ミ居ルヤ

第二、關稅會議中日支兩國間特殊ノ通商關係ニ鑑ミ所謂互

ニ付質問ヲ為シタル次第ナルニ付之ニ対スル支那側ノ可成具體的ノ説明ヲ承知シタシト述ヘタル処願ハ本使カ實際自主権回復ニ異存無キヲ承知シ感謝ニ堪ヘサルカ時間モ大分遅レタルニ付御質問ニ対スル説明ハ次回ニ譲リ出来得ル限リ本使ノ希望ニ副フヘキ旨答ヘタリ

本使ハ更ニ進ンテ前述ノ如ク自主権ニ関スル提議ニ関シテモ種々ノ質疑ヲ感スル次第第二テ一項宛ニ付審議決定スル事ハ或ハ他日誤解ヲ生シ日本側ニ取リテモ亦支那側ニ取リテモ危険ナルノミナラス斯ル交渉ニ関スル從來ノ慣例ニ從フモ先ツ最初條約全般ニ対スル提案ヲ見ルヲ普通トス殊ニ前回會議ニ於テ述ヘタル通り支那側條約案文モ大体出来居ル趣ニ付至急提出サレ度旨要求シタルニ願ハ実ハ他ノ一二國トノ條約改正交渉トモ彼此関連シ非常ニ複雑ナル事項ニ互ル條約文ノ「ドラフト」作製ニハ尚相当時日ヲ要スル次第ヲ縷述シタル上出来上リ次第提示スヘク夫レ迄ニ重要ナル問題ニ付テ順次意見ヲ交換シ度旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ右事情ハ之ヲ諒トスルニ付條約全体ノ「ドラフト」提出ハ其ノ作製ヲ待ツ事トシ差支無キモ條約ニ規定セラルヘキ主ナル事項ハ條文ノ形トセスシテ差支無キニ付提出セラレ度旨

惠條約ヲ締結スル事トナリ既ニ本使ハ當時ノ外交總長トノ間ニ公文ノ交換ヲ了シ居ル次第ナルカ支那側ニ於テハ今日右互惠條約交渉ノ用意アリヤ

第三、支那側提案ニ依レハ關稅ノ徵收ハ内國民待遇トナリ居ル処普通ノ條約ノ慣例ニ依リテ最惠國待遇ヲモ付加スル必要アルヘシト思考セラルル処最惠國待遇約款ニ対スル支那側意向如何

第四、一昨年十一月十九日ノ關稅會議ニ於ケル自主権ニ関スル決議ニ於テハ自主権回復ト共ニ釐金撤廢ノ用意アル旨聲明セラレタルカ少トモ自主権回復ノ時期迄ハ之ニ関スル充分ノ用意ヲ必要トスヘキ処之ニ対スル支那側ノ計畫如何之ニ対シ願ハ國定稅率ニ付テハ稅率法ノ制定アルモ未タ稅率ノ制ナキ事互惠協定モ成ル可ク速ニ締結シタキ事最惠國待遇ハ互惠協定ヲナス以上別ニ其必要ナルカヘキ事及釐金撤廢ハ之ニ代ハル可キ財源ヲ要スルニ付急速出来難キモノナルヘク速ニ其實現ヲ期シ度キ旨ヲ説明シテ更ニ支那側提案ニ対スル本使ノ意向ヲ聞キ度シト述ヘタリ

本使ハ之ニ対シ本使トシテハ支那側ヲシテ可成速ニ自主権ヲ回復セシメ度希望ヲ有シ此ノ希望ヲ有スルカ故前記四点

繰返シ要求シタル結果願モ遂ニ之ヲ承諾シテ結局來週水曜日迄ニ其ノ提出ヲ約シ次回ハ來週土曜日午後ト決定シ散會セリ

619 昭和2年1月29日 幣原外務大臣より 在漢口高尾總領事宛(電報)

北京政府との通商條約改訂非公式交渉に關シ 陳友仁に対する説明振りについて

※ 第二四号 貴電第六〇号ニ關シ 本省 1月29日發

支那現政局ニ対スル日本政府ノ態度ハ去ル十八日日本大臣議會演說中詳述ノ通ニシテ今後共此方針ヲ以テ一貫セントスルモノナルカ殊ニ我方トシテハ支那ノ一党一派ヲ援助スルノ結果ヲ來スカ如キハ嚴ニ之ヲ戒ムルト同時ニ支那國民カ平和的努力ニ依ル合理的要望ヲ實現セントスルニ対シテハ同情ヲ以テ及フ限り之ヲ援助セントスルノ覺悟ヲ有スルコト御承知ノ通ナリ從テ日支通商條約改訂問題ノ如キ支那國民一般ノ要望ニ対シテハ出来得ル限り共存共榮ノ具体化ト共ニ速ニ之カ實現ノ方法ヲ講スルコト之又同國民要望ニ添

フ所以ナルコト日本政府ノ確信スル所ナルヲ以テ右実現ヲ促進スルノ一手段トシテ北京政府トノ間ニ本件改訂ニ関シ會談スルコトトナリタルカ右ハ固ヨリ非公式會談ニシテ正式ノ談判ニ非ス曩ニ本件ニ関スル対支回答ヲ覺書ノ形式トシ今後ノ交渉ヲ非公式會談トシ談判ノ形式ヲ執ラサルハ皆北京政府承認問題惹起ヲ避ケントスルノ趣旨ニ外ナラス蓋シ若シ現在ノ北京政府カ日本其ノ他列國ノ承認ヲ得タルモノニアラサルコトヲ理由トシテ日支通商条約改訂ヲ要求スル北京外交部ノ提議ニ対シ回答ヲ避ケ又何等ノ措置ヲ執ラサルニ於テハ支那國民ハ日本ノ誠意ヲ疑ヒ兩國民間ニ感情ノ疎隔ヲ生スルニ至ルヲ慮リタレハナリ而シテ本件非公式會談ニヨリテ支那國民ノ合理的希望並日本ノ正当ナル利益ヲモ直ニ諒解ヲ遂ケ得ルニ於テハ支那新政府ノ成立ヲ俟チ何時ニテモ右諒解ノ結果ヲ条約トシテ調印シ得ヘク此ノ如キハ日支兩國國民ヲシテ其将来ノ關係ニ付一種ノ安心ト希望トヲ有セシムル所以トモナルヘク兩國民間現在ノ親交關係ヲ増進スル上モ裨益スル所尠カラサルヘシト信ス從テ今次ノ會談ハ初メヨリ何等支那一党一派ノ利益ニ偏セントスルノ意思ヲ有スルモノニアラス又右會談ノ内容ニ就テモ日本

北京 發
本省 2月2日後着

※
通第一七号

(一) 法律ニ関スル大綱

兩國人民ノ民刑事訴訟一切ノ案件ハ各所在國ノ法律ヲ遵守シ及外國(其ノ國)法廷ノ管轄ヲ受クヘシ

(二) 航行ニ関スル大綱

兩締約國ノ領土間ニハ互ニ通商航行ノ自由有ルヘシ右締約國人民及其ノ船舶及貨物ハ自由ニ他方締約國ノ領土内ニシテ外國人ニ通商ヲ許セル各地方ニ赴キ且ツ所在國人民ト同等ノ權利自由及通商航行ニ関スル各種ノ特權免除(各種豁免權)ヲ享有ス但シ所在國法律ヲ遵守スルヲ以テ限リト為ス

前項ノ航行ニシテ内國待遇ヲ受クルノ規定ハ兩國ノ沿岸貿易及内水航行ニ対シテハ之ヲ適用セス本項ノ航行制度ハ正ニ締約各國本國法律ノ支配ヲ受クヘシ

(三) 旅行及商業工業ヲ經營スルノ權利ニ関スル大綱

凡ソ締約國ノ人民他ノ締約國ノ領土内ニ於テハ其所在地ニ於ケル法律章程ノ規定ニ照シ旅行居住及商業或ハ工業

側ニ於テ強テ秘密ニ葬ラムトスル意思ニアラス國民政府ニ於テ承知シ度キ点ハ貴官ヨリ隨時説明スヘキ旨可然陳ニ挨拶アリ度シ

620 昭和2年2月(2)日 在中國芳沢公使より幣原外務大臣宛(電報)

中国側の改正条約案大綱に関する覚書受領に

ついて

別電 二月二日着在中國芳沢公使より幣原外務大臣宛
通第一七号

付記 二月五日付
中国側の改正条約案大綱に関する覚書(訳文)
中国側改正条約案大綱についての評価およびそれに対する措置案

北京 發
本省 2月2日後着

※
通第一六号

第二回會議ニ於テ支那側ノ約束シタル条約大綱ニ関スル覚書二日送付ヲ受ケタリ(全文支那語) 訳文全部別電通第一七号ノ通り

(別電)

ヲ經營スルノ權利有ルヘシ但シ兩國法令ヲ以テ特ニ制限スルモノハ此ノ限ニ非ス
四警察及課税ニ関スル大綱
一 締約國人民ハ他ノ締約國ノ領土内ニシテ居住及商工業ノ經營ヲ許サレタル地点ニアリテハ居住ノ家屋及使用ノ倉庫店舗並ニ一切ノ付屬物權ニ関シ所在地ノ人民ト同様ニ警察法規課税規則ヲ遵守スヘシ

(付記)

日支条約 (二月五日)

一、支那側ヨリ提示シタル改正条約案大綱ハ

(一) 治外法權ノ即時且無条件撤廃(二) 通商及航海ニ関シ人民、船舶及貨物ニ関スル國民ノ待遇ノ保障(三) 旅行居住並商業及工業經營ノ權利許容及四警察課税ニ付所在地ノ法規遵守ノ四綱目ヲ規定シ居ルモノニシテ既ニ提示ノ關稅自主權即時回復ニ関スル条約ノ規定ヲ併セ之ヲ我方ノ根本方針ト比較スルニ支那側ノ主張ハ即チ領事裁判權ノ即時且無条件撤廃及關稅自主權ノ即時回復ヲ主張スルト共ニ通商及航海ニ関スル國民待遇並国内ニ於ケル居住旅行

商業及工業経営ニ関スル權利享有ニ付平等的の規定ヲ設ケムトスルモノニシテ大体ニ於テ我方方針原則一、ニ依ルノミニシテ我方ノ重ヲ置ク方針二、暫行的調整ニ付テハ何等ノ考量ヲ用ヒス又之ヲ我方方針一、ニ定ムル一般通商航海条約ノ原則ニ照スモ支那側大綱ハ(一)入国ノ規定ヲ欠ク事(二)通商航海及関税ニ関シ国法遵守ノ下ニ国民待遇ヲ保障スルノミニシテ此種事項ニ関シ一般条約ニ於テハ最惠国待遇ヲ保障スルト其ノ趣ヲ異ニシ居ルヲ以テ其保障ノ効果薄ク又(三)国内ニ於ケル居住旅行商業及工業ノ経営ニ関スル權利保障ニ付テハ国民待遇及最惠国待遇ノ何レヲモ保障セス且ツ国内法ヲ以テ制限シ得ル旨ヲ定ムルヲ以テ結局ニ於テ条約上ノ保障ナキニ等シ(三)及沿岸貿易及内水航行ノ開放ニ付テハ特ニ之ヲ認メサル旨ヲ定ムルヲ以テ此ノ点ニ於テ我方方針二、暫行的調整案中重要ナル点ニ對シ反對シ居ルモノナリ

二、支那側提案ニ對スル措置

前記支那側提案ニ對シテハ成ルヘク速ニ我方根本方針ヲ提示シテ方針一、ノ原則ヲ承認スルト共ニ支那側ヲシテ方針二、暫行的調整ノ原則ヲ認メシムルコト必要ナルカ

而シテ右ノ中互惠税率ニ付テハ第二回會議ニ於テ支那側ヨリ大体異存ナキ旨ヲ言明シ居ルヲ以テ第三回會議ニ於ケル支那側説明ノ結果ヲ参照シ速ニ我方方針ヲ提示シ前記ノ趣旨ニ基キ適宜説得ノ上右方針二、暫行的調整ニ付支那側ノ明確ナル諒解ヲ取付ケタル上進ムテ具体案ノ審議ニ入ルコト致シタシ

621

昭和2年2月(6)日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

自主権承認の前提のもとに互惠および暫行税率審議進行方について(第三回會議議事要領)

北京 發
本省 2月6日後着

通第一八号
第三回條約改訂會議(二月五日午後)議事要領左ノ通り
本使ハ二月一日付支那側提出ノ條約大綱四項ハ関税自主権ニ関スル提案ト併セテ條約全般ニ對スル支那側ノ意向ナリトノコトナルカ右ハ猶極テ大体ニ止マリ條約全部ノ腹案トシテハ余リニ簡單ニ失シ満足ノモノト言フヲ得スト前提シ

右調整ハ(一)治外法権撤廃後ニ於ケル本邦人ニ對スル公正ナル裁判ノ保障(二)自主権回復後ニ於ケル急激ナル関税増徴ニ因ル本邦對支貿易ノ影響緩和ノ為兩國内ニ締結スヘキ互惠税率ノ協定及(三)日支兩國間ノ經濟提携ヲ促進スルカ為広キ範圍ニ至ル内地開放ノ実行ノ保障ノ三者ニ過キス而モ前二者ニ付テハ特ニ治外法権ノ即時撤廃及関税自主権ノ即時回復ヲ目的トスルヲ以テ実行極メテ容易ナルノミナラス孰レモ支那ノ内政干渉ニ互ルカ如キ何等ノ措置ヲ要求スルモノニ非ス又内地開放ノ保障ニ付テハ出来得ル限り相互主義ニ依ルモノナルカ故ニ支那側ニ於テ之ヲ認ムルモ今回ノ條約改正ニ對スル其ノ國民的希望ノ実現ヲ妨クル処ナキノミナラス之等ノ調整ハ日支兩國間ノ緊密ナル關係ニ鑑ミ兩國ノ利益増進上極メテ必要ナルヲ以テ支那側ニ於テ之ヲ認ムルニ付何等異存ナキモノト認メラル他方之ヲ帝國ノ立場ヨリ見レハ帝國カ他國ニ率先シ支那ノ國民的希望ノ急速実現ヲ援助スルハ一ニ本邦ノ對支貿易ヲ保全シ在支邦人ノ經濟發展ヲ確保シテ兩國間ノ經濟提携ヲ促進セムカ為ニ外ナラサルカ故ニ前記調整ヲ認メシムルコト絶対ニ必要ナリ

前回ノ約束通り関税問題ニ関連シ四個ノ点ニ就テ支那側ノ詳細ナル説明ヲ聴キタキ処右ノ四点ノ内第一國定税率問題ニ就テハ自主権回復後如何ナル税率ヲ制定セラルルヤ今回迄ノ腹案ヲ承知シタキ次第ナルカ之ニ関連シテ猶詳細意向ヲ伺ヒタキコトアリ一月十三日付貴總長ヨリ公文ヲ以テ三個ノ大總統令ヲ大使宛ニ送付シテ縷々右大總統令發布ノ已ムヲ得サル事情ヲ述ヘラレタリ其第一ノ大總統令ニハ一九二九年一月一日ヨリ関税自主権ノ回復ヲ為スコトヲ定メ又他ノ大總統令ニ於テ自主権回復ニ至ル迄ノ過渡税(即チ暫行税率)ニ就テハ関税特別會議ヲ続開シテ之ヲ定ムル旨ノ規定アリ右支那側公文ニ對シテハ目下本國政府ニ請訓中ニシテ何レ遠カラス回答ヲ發スルコトナルヘキモ茲ニ支那側ノ意見ヲ確メ置キタキハ支那側ノ要求スル自主権回復ノ時期ハ右大總統令ニ記載シアル通り

(2)一九二九年一月一日ナリヤ次ニ過渡税率ニ就テハ関税會議ヲ続行シテ定ムル御意向ノ如キ処日本ハ関税ニ関スル總テノ問題ニ就テ審議ヲ為ス為支那ノ希望ニ応シ関税會議続行ニ努力シタリ今後モ何等此点ニ變リナキモ不幸ニシテ今日迄同會議ノ再開ヲ見ス今後或ハ日支兩國ノ努力ニ拘ラス同

會議ノ再開覚束ナキ場合ニ於テハ幸ヒ日支間ニ条約改訂ノ商議開カレ居ルニ付右過渡稅ニ就テモ本會議ニ於テ之ヲ商議スルノ意向ヲ有セラルル次第ナリヤ更ニ進テ前回質問ノ第二点即チ互惠稅率協定ノ問題ハ最早議論ノ時機ニアラスシテ直ニ商議ヲ開始スヘキ段取ト思考セラルルニ付テハ國定稅率ノ問題ト共ニ互惠稅率及暫行稅率(過渡稅率)ニ就キ此等諸点ニ関スル支那側意向如何

之ニ對シ顧總長ハ先ツ前回約束セル四点ニ就キ

(一) 國定稅率ノ問題ハ既ニ大總統令ヲ以テ大綱ヲ發表シ最低百分ノ七・五最高百分ノ四〇ノ稅率ヲ決定セリ細目ハ今後二年ノ余白ヲ以テ貿易ノ狀況國庫ノ收入ヲ考ヘ之ヲ決スヘ

ク

(二) 互惠稅率ノ問題ハ主義上兩國ノ承認ヲ經タルニ付詳細ハ關稅自主權承認ノ下ニ適當ナル時機ニ之ヲ商議スヘク

(三) 最惠國約款ノ問題ハ互惠主義ト兩立セス將來支那カ他國ト互惠主義ヲ協定シ外國カ皆之ニ均霑スルニ於テハ之レ即現在ノ通ノ Conventional Treaty トナリ自主權恢復ノ實質ヲ失フ可シ

(四) 釐金ノ撤廢ハ各機關ヲシテ必要ノ腹案ヲ審議中ナリト說

貿易ニ有害ナル打擊ヲ与フルハ面白カラサルニ付此点ヲ適當ニ調節セント欲スル次第ナリ之ヲ以テ自主權恢復ノ途ヲ塞クノ意毫末モナキ次第ヲ縷述シ自主權恢復ト稅協定トハ共ニ重要ナルモ何レヲ條件トナスヘシトハ双方ヨリ主張セサルコトトシタシト述ヘタル後最惠國約款ノ問題ニ言及シ通商問題ニ付テハ國民待遇ノミナラス如何ナル第三國ヨリモ劣等ノ地位ニ置カレサルコトハ貿易ノ競争ノ烈シキ今日絶對ニ必要ニシテ此点ハ各國間ノ通商條約ニ見ルニ普通ノ例ナリ

(5) 而シテ互惠稅率ニ依リテ定メラルル処ノ品目ノ數ハ比較的少數ノ特定品ナルヘク若シ一般ノ貿易關係ニ付テ最惠國待遇ノ保障ナキニ於テハ日支ノ貿易業者ハ互ニ脅威ヲ感スルニ至ル可シ此問題ハ自主權ノ問題トハ何等關係ナシト述ヘ更ニ釐金撤廢ノ問題ニ付テハ支那政府ノ立場ニハ同情スルモ自主權恢復時機迄ニ僅ニ二年足ラスノ年月ヲ余スノミナレハ其ノ腹案ニ付キテ今少シク詳細ニ承知シタシ之ヲ要スルニ今日ノ討議ニ於テ明瞭トナリタルハ互惠稅率及暫行稅率ノ問題ノ審議ニ着手スル意向ヲ支那側ニ於テ明ニセラレタル点ニシテ此点ハ直ニ政府ニ報告シテ其ノ考量ヲ求ムヘ

明シ更ニ進シテ今日ノ本使ノ質問ニ對シ關稅自主權ノ實現期ハ關稅會議ニ於テ宣言シ又大總統令ニ於テモ定メタル通一九二七年一月一日ヨリ尚二分五厘附加稅實施後自主權恢復迄ノ過渡時期ニ於ケル暫行稅率ニ付テハ關稅會議ヲ續行シテ決定シタキモ關稅會議續行ハ支那政府ノ努力ニ對シ日本側ノ援助ニ拘ラス其ノ實現ハ到底今日希望シ難キニ付貴公使ノ提議ニ係ル暫行稅率ノ問題ヲ本條約改訂ノ商議ニテ決定スルニ異議ナシ即互惠稅率ノ問題ト併セ論議スルニ異存ナシ但之等ノ問題ハ自主權恢復ノ條件トナスヘキ性質ノモノニ非ス故ニ先ツ自主權問題ニ關スル日本政府ノ意向ヲ確カメタシト述ヘタリ

(4) 本使ハ國定稅率ノ内容ハ七分五厘ヨリ二割ナリト云フモ其ノ範圍内ニ於テ如何ナル貨物カ特ニ日本ニ關係アル貨物カ如何ナル割合ノ稅ヲ課セラルルヤヲ知ルコト必要ナリ而シテ互惠稅率及暫行稅率ノ問題モ國定稅率ノ問題ト關連シテ本會議ニ於テ商議ヲ進ム可シトノ御意向ニ對シテハ満足ノ意ヲ表ス而シテ自主權恢復問題カ度々繰返シ述ヘタル通日本ハ何等ノ異議ナキノミナラス大ニ同情ヲ以テ其ノ實現ヲ計ル考ナリ要ハ唯余リ不必要ナル變化ノ為日支ノ重要ナル

シト述ヘタルニ對シ顧ハ自主權恢復ノ問題ニ付テハ原則上異議ナキコトヲ明ニセラレタルハ大ニ満足スル処ニシテ互惠及暫行稅率ノ問題ハ自主權ノ原則ニ對スル一ハ品目ニ關スル例外ニシテ他ハ時機ニ關スル例外ナリ原則ヲ認メラレタル以上其ノ例外ノ便法ニ付テ互ニ協定ヲ遂クルニ異存ナシ次ニ國定稅率ノ問題ニ付テハ前ニ説明シタル処ヨリモ一層詳細ニ説明スルコト困難ナリ

(6) 今ハ之ヲ言明スルハ是迄束縛ヲ受ケタルコトヲ繰返スコトヲ意味シ關稅自主ノ原則ニ基クコトトナル兔ニ角國定稅率ハ今後貿易ノ狀況需要ノ点ヲ考慮ニ入レテ決定スルモノナルモ其稅率ハ不偏的ノモノニシテ一國ニ對シ特ニ利益又ハ不利益ナキ次第ナリ次ニ互惠國待遇ノ問題ニ付テハ若シ互惠稅率ヲ協定スル場合ニハ協定品目ニ特定ノモノナルヘキモ其種類モ鮮カラサルヘク而シテ將來日本以外ノ國ト稅率ノ協定ヲナス場合ニ於テ各國共最惠國條款ニ均霑スル時ハ特定ノ國トノ互惠ノ趣旨ヲ没却スヘシ最後ニ釐金撤廢ノ問題ニ付テハ將來具體的ノ計畫進捗スルニ從テ之ヲ發表スヘシ之ヲ要スルニ既ニ關稅自主ノ原則ニ付テハ承認ヲ与ヘラレタル以上喜テ互惠稅率及暫行稅率ノ問題ニ付テ審議ヲ進

メ度所存ニシテ暫行税率ノ問題ニ付テハ支那側ヨリ意見ヲ提出シ互恵税率ノ問題ニ付テハ双方ヨリ専門委員ヲ任命シテ審議ヲナシムヘシ

尤之等ハ自主権ニ関スル支那側提案ニ付シテ日本政府ノ承認ヲ前提トスト述ヘ大体曩ノ所論ヲ繰返シタルニ付本使ハ右ハ支那側提案ノ「テキスト」ヲ承認スルヲ要スルノ趣旨ナルヤト問ヒタルニ顧ハ然リ少クトモ支那側提案ノ「サブスタンス」ニ付テ日本政府ノ承諾ヲ要スヘキ旨ヲ答ヘタルニ付シ本使ハ条約ノ一部分ニ付テ全般ノ協議ヲ終ル前ニ之ヲ決定スルハ不合理ニシテ支那側提案ノ「テキスト」ノ「サブスタンス」ヲ承認スルコトハ之ヲ留保セサルヲ得ス即チ我方ハ自主権恢復ノ主義ニ承認ヲ与フルト共ニ同時ニ互恵及暫行税率ノ問題ノ審議ニ着手スルヲ要ストナスノ意見ニシテ一部条文ノ「テキスト」ニ付テハ之ヲ留保セサルヲ得スト述ヘ尚前記外交総長ノ説明ニ付シテ本使ヨリ更ニ意見ヲ述ヘタキ点アルモ次回ニ譲ル可キ旨ヲ述ヘ更ニ支那側ニ於テ一層詳細ナル主義全般ニ関スル腹案ヲ提出セラレタキ旨ヲ要求シ置ケリ尚外交総長ハ支那側ノ主義大綱(自主権問題ヲ含ム)ニ関スル提案ニ付シ日本政府ノ的確ナル

行ニ便スヘク若シ曲リナリニモ纏マル場合ニハ仮令支那ノ政局ニ如何ナル変化アルトモ他日ノ為我方ノ立場ヲ有利ナラシムルコト論ヲ俟タサルヘシ特ニ通商条約改訂ノ問題ニ対スル各国ノ態度ハ往電第一三二一号ニテモ既ニ大体御推知ノ通ナルカ其後事態更ニ進ミ二三公使ノ如キハ現ニ本使ニ付シ支那ヨリ改訂ノ申込ミアル場合ニハ反対セサルヘキ旨ノ意向ヲ示シ旁何時之等主ナル諸国ニ付シ支那側ヨリ条約改訂ノ提議ヲナシ来リ談判開始トナルヤモ因ラレズ其際ニハ恐ラク之等諸国ハ真ノ平等条約ヲ締結スルニ大ナル躊躇ヲ示ササルヘシ日本ノ対支貿易ノ為ニ計ルニ将来種々ノ事情ニ依リ或ハ高率ノ税率ヲ認メサルヲ得サル場合アルヤモ計リ難キ不安ヲ残シ置クヨリハ寧ロ現下ノ状況ニ於テ比較的有利ナル税率ヲ協定シ幾年ノ期限ヲ設ケテ其ノ間ハ少クトモ不安ナカラシムル方得策ナリ右様ノ次第二付我方ノ条約改正ノ大体方針トシテハ往電第九号ノ趣旨篤ト御考慮ヲ煩ハスト同時ニ此際ハ直ニ前記ノ通税率ノ協定ニ着手スルコト事宜ニ適スルモノト思考ス尚又右税率ノ協定ハ二分五厘問題トモ密接ノ関係アル処本問題ハ往電第一八九号ノ通偶然「アグレン」問題発生ノ為我方主張ヲ右往電「ステ

意向ヲ表示セラレンコトヲ希望セリ
次回ハ十四日(金曜日)午後開会
漢口ニ転電セリ

622 昭和2年2月9日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

税率協定の交渉に着手するを有利とするとの
判断について

北京 発
本省 2月9日前着

※
通第二〇号
往電通第一九号ニ関シ

互恵税率及暫行税率ニ付テハ自主権ノ承認アルニ於テハ直ニ商議ヲ開始シ差支ナキ意向ヲ支那側ニ於テ表示シタル此際前記往電所載ノ如キ関税問題ニ関スル我方対案ヲ作成付シ直ニ右税率協定ニ着手スル事得策ト思考ス尤モ右税率ノ協定ハ支那ノ時局ノ現状ニ於テ中々困難ノ事勿論ナルモ右ハ最近南方側ニ漸次連絡ヲ密ニシ来レル黄郛、王正廷一派ノヨク承知シ居ル事ニテモアリ漢口等ニ於テ適宜南方トノ裏面ノ諒解ヲ試ミツツ進ムニ於テハ当地ニ於ケル商議進

「トメント」中ニ記入スルコトヲ得タル上共同会見ノ節本使ハ口頭ヲ以テ外交総長ニ付シ更ニ日本ノ態度ヲ説明シ置キタルカ一方支那側通告ノ大統領令ニ付シテハ右ノ通我方態度ヲ明白ニシ置クト同時ニ(往電第一二四号ヲモ参照)其機ヲ利用シ他方条約改正交渉ニ於テ前記ノ通税率ノ交渉ヲ促進スルコトハ税率ニ関スル我方ノ希望達成ニ便スルコトト思考ス就テハ本件モ亦速ニ御詮議御決定アランコトヲ希望ス

623 昭和2年2月10日 幣原外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

条約改正根本方針について関係省間の協議未了のため我方の対案提示差控え方訓令

本省 2月10日後発

※
通第四号
貴電第一九号及第二〇号ニ関シ

(六三二文書)
次回会議ニ於ケル我方態度ニ関スル貴見一応御尤ト存セラ

ルル処
一、我方条約改正根本方針ニ付テハ其後関係省間ノ議ヲ重
ネ居ルモ鉱業権ノ問題労働者問題等其他ノ事項ニ付関係

省側ノ説得容易ナラス今猶決定ヲ見ス殊ニ大蔵省側ニ於テハ債務整理問題ノ解決ヲ以テ関稅事項承認ノ条件タラシムヘキ旨ヲ主張シ居リ当方ニ於テハ右ハ条約改訂商議ト切離シテ之カ解決ヲ計ルヘキ方針ヲ以テ折角説得ニ努メツアル次第ナレハ貴見ノ通此際関稅問題ニ付直ニ我方具體的対策ヲ提示スルコトハ適當ナラス

二、他方貴電通第一八号末段支那側条約大綱ニ対スル我方ノ意見ハ前述我方方針ノ決定ヲ見タル後ナラテハ之ヲ開示シ難キ処支那側大綱ハ領事裁判權ノ即時且無条件撤廢及一九二九年ヨリ関稅自主權ノ回復ヲ主張スルト共ニ單ニ貿易航海ニ関シ人民船舶及貨物ニ対スル國民待遇ヲ保障シ又国内ニ於ケル居住旅行商業及工業ノ經營ニ付權利ヲ認ムルモ國民待遇又ハ最惠國待遇ノ何レヲモ保障セス且法国ニ依ル制限ヲ留保シ居リ結局条約上ノ保障ナキニ等シク尚沿岸貿易及内水航行ノ閉鎖ヲ明ニシ居ルヲ以テ右ハ

(一)我方針第一項ヲ採用スルノミニシテ我方ノ重ヲ置ク方針第二項暫行的調整ニ付テハ関稅問題ニ付暫行及互惠稅率ノ協定ヲ認ムル外我方ノ希望スル所ト相距ルコト

624

昭和2年2月(5)日

在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

関稅問題より惹いて最惠國待遇問題に議事を
進めたい旨意見具申

北京 發
本省 2月15日前着

※通第一一〇号

貴電通第四号ニ関シ

(一)今回ノ条約改正ノ交渉ハ普通ノ通商条約ノ改訂ノ場合ト異リ極メテ複雑ナル支那ノ政情ヲ考慮ニ容レ大局上ノ利益ノ打算ヲ主トスルヲ要スル事勿論ニシテ從テ支那今後ノ政局ノ不安定モ比較的長期ニ亙ルヘキニ鑑ミ彼此此際詳密ナル通商条約ノ締結ヲ試ミルト言フヨリモ寧ロ大体ノ取極ニ止メ多クノ難問題ハ強ヒテ深ク之ニ触レス懸案ノ儘ニ残シ事實問題トシテ解決スル事トセハ却テ日支兩國ノ自然ノ国力ノ差從來ノ慣習及支那一流ノ融通性ニ鑑ミ結局我ニ有利ナルヤニ思考セラル尚現在ノ支那政局ニ於テハ實力ナキ北京政府ノ当局者ニ於テハ単ニ其将来ノ内政上ノ立場ヲ作ル為メ已ムヲ得サル場合ノ外表面ハ飽迄極端説ヲ主張シテ讓

ト遠ク又(二)之ヲ一般通商条約ノ原則ニ照スモ(一)入國ノ規定ヲ欠クコト(二)廣ク通商航海ニ関スル一般的最惠國待遇ノ規定ヲ欠クコト及(三)「エタブリスマン」ノ事項ニ関スル保障薄弱ナルコト等極メテ不満足ナルモノト認メラルルノミナラス(三)我方カ今回条約改正ノ眼目トシ居ル内地開放ノ点ニ付テモ前記ノ如ク我希望ニ遠サカルコト甚シク旁今直ニ我方意見ヲ開示スルハ不得策ト認ムルニ付我方決定ヲ見ル以前ニ於テ前記諸点ニ関スル支那側ノ意向ヲ更ニ詳細討究スルコトト致シ度シ三、仍テ次回會議ニ於テ貴官ハ私見トシテ前記ノ諸点(尤モ入國ニ関スル規定ヲ此際問題トスルコトハ我内地支那人入國問題ニモ触レ事態ヲ紛糾セシムル虞アルニ付此点ハ処理上深甚ナル注意ヲ要スルハ申迄モ無シ)特ニ(二)ノ(四)ニ関シテハ条約上規定ノ形式ハ別トシ先方ハ我方ニ対シ広ク通商航海ニ関スル一切ノ事項ニ関シ實質上ニ於テ列國ヨリ劣ラサル地位ヲ保障スルニ付異存ナキ意向ナルヤ否ヤ並ニ(三)ニ関シ結局先方ニ於テハ土地所有權、産業權等ニ付如何ナル程度迄ノ我方ノ希望ニ応スル用意アリヤ等ヲ確カメラルルコトト致度シ

ラサルノ態度ニ出ツルノ傾向アルニ付我方ニ於テモ此点ヲ吞込ミ余リニ表面ヨリ先方ノ意向ヲ質問スルコトナク問題ニヨリテハ個々ニ取扱ヒテ以テ先方ヲシテ出来得ル丈ケ我主張ニ接近セシムルノ策ニ出ツル事然ルヘシト思考セラル(二)例ヘハ鉱業權ノ問題ノ如キハ支那ニ於テ將來「コンセツション」又ハ合弁其他ノ形式ニ依リ必ス外國ノ資本又ハ經營ノ援助ヲ請フノ必要ニ迫ラルヘク我方ニ於テハ寧ロ余リ厳格ニ論セス既得權及將來獲得スヘキ權利ヲ留保スル位ニ止メテ將來ノ事實上ノ問題トナシ又労働問題モ支那側ヨリ種々要求アルヘキ場合ニハ懸案トシテ將來ニ殘シ置クコトトシテ入國ノ規定ノ如キ厳格ニ規定セサル事可然尚又債務整理ノ問題ハ関稅會議以來ノ支那側ノ主張及英國其他ノ態度ニ顧ミ稅率又ハ自主權回復ノ条件トシテ先方ニ承認セシムル事不可能ナルヘキモ支那側ト公然トナク意見ノ交換ヲ行ヒ自發的ニ或種ノ整理案ヲ提出セシムル事ハ必スシモ不可能ノ事ニアラサルヘク本使ハ暫行稅率協定ノ場合之ニ関スル大總統令中ニ内外債整理問題ニ言及セルヲ利用シ支那側ノ腹案ヲ質問シ関稅會議當時ノ研究ヲ利用シテ出来ル丈ケ本件ニ尽力シ度所存ナリ何レニスルモ貴電中一ノ問題ニ

付テハ此際直ニ必スシモ政府ノ意向ヲ確定セラルルノ要ナルヘク他日ノ交渉ノ模様ニ譲リテ然ルヘキヤニ思考セラシムル尚又「エタプリスマン」ノ規程ノ不完全ナル点ハ必要ニ応シ我方ヨリ具体案ヲ以テ主張スル事ヲ得ヘシ

(三)之ヲ要スルニ支那側提案ノ大綱中最重大ナル問題ハ最惠國待遇沿岸貿易内水航行及内地開放ノ諸問題ナルヘク右ノ内地開放ノ問題ハ會議ノ席上直ニ議論ヲ上下スルモ満足ナル結果ヲ得ヘキヤ疑問ニ付先ツ往電通第二〇号末段ノ通法權會議ノ報告書勸告ニ支那側委員ノ調印アルヲ理由トシ之ニ譲ル事トシ以テ報告書ヲ楯ニ漸次内地開放ノ問題ヲ承認セシムル事ト致シ又沿岸貿易及内水航行ノ問題ハ我方ヨリ具体的対策ヲ出シ相互主義ト從來ノ沿革ヨリ満足ナル結果ヲ得ルニカムルノ外ナカルヘク而シテ最惠國待遇ノ問題ハ現ニ議論ニ上リ居ルニ付關稅問題ヨリ進テ一般的最惠國待遇ノ問題ニ議論ヲ進メ得ル次第ナリ

(四)今日ノ會議ノ程度ニ付テハ既ニ何等我政府ノ意向ヲ公然示サスシテ先方ノ意向ノミニ付質問ヲ行フハ面白カラサル狀況ニシテ此上ハ往電通第一九号及通第二〇号ノ趣旨ニ依リ關稅問題ニ関シ我具体案ヲ提出シ稅率問題ノ協定ニ進ム

關稅率制定權即チ關稅率ノ内容ニ掣肘ヲ加ヘントスル意志ヲ有スル次第ニ非スシテ互惠稅率協定ノ際ニ協議ノ基準トモナルヘキ關稅率ノ内容ヲ示サレ度シト云フニアル旨ヲ縷述シ何レ近々開カルヘキ稅率ノ協定ノ際參考トシテ關稅率ノ提示ヲ望ム次第ナリト述ヘ

第二ノ問題タル最惠國待遇ノ点ニ移リ最惠國約款ハ稅率ニ関スルモノモ又通商航海ノ一般事項ニ關スルモノモ共ニ之ヲ條約中ニ挿入スル事平等條約關係國間ニアリテモ普通ノ原則ニシテ即チ條約國ハ如何ナル第三國ヨリモ不利益ナル地位ニ置カレサル事ヲ要ス之ハ日支双方共同様ニ其必要ヲ感ス可シ

元來互惠稅率ノ協定ニ於テハ協定國間貿易品目ニ付特殊ノモノヲ選定スルニ付實際他國ノ均霑スルモノノ尠キ次第ニシテ最惠國待遇ニ依リテ關稅自主權回復カ無意味トナルカ如キ心配ナカルヘシ又他方若シ最惠國待遇ナシト仮定シテ日本トノ貿易品ニ關シ支那カ他國ニ對シ有利ナル互惠稅率ヲ与ヘタリトセンカ日本トノ貿易ハ右貨物ニ關スル限リ支那ヨリ驅逐セラルル事トナルヘク斯ル不安ナル狀態ハ日本トシテハ之ヲ承認スル事ヲ得ス即チ日本ハ最惠國約款ノ存置

コト然ルヘシ尤モ本交渉ハ支那政情特ニ南方トノ關係モアリ決シテ急進スルノ要ナキモ會議ヲ続行スル以上ハ最早此上我方ノ意向ヲ明示スル事ヲ避ケ難キ局面トナリタルニ付前述ノ程度ニテ議事ヲ進行スルノ必要アル次第ニテ右ハ交渉上我方ノ有利ト思考スル次第ナルニ付再應御考究方御詮議アリタシ

625 昭和2年2月(日) 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

北京政府側協定稅率および最惠國待遇の原則
提示について(第四回會議議事要領)

北京 本省 2月15日前着 發

※通第二二号

十四日午後第四回會議々事要領左ノ通

關稅自主權ニ關スル日本政府ノ訓令ニ接到セラレタリヤトノ顧問ニ對シ何等接到セスト答ヘ前回ニ引續キ質問應答スヘシト告ケタル後本使ハ第一關稅率ノ問題ニ關シ支那側ニ於テハ關稅率ヲ提示スル事ハ自主權回復ノ根本觀念ト相容レストノ御懸念アル尠本使ノ主張ハ日本カ支那側ノ

ヲ絶対ニ必要トスルモノナリ尚又支那側ハ若シ日本トノ間ニ最惠國約款ヲ存置スル場合ニハ現ニ支那カ多クノ國トノ間ニ有スル不平等條約ニ對シテ日本カ均霑スル事トナリ折角日本トノ間ニ平等條約ヲ締結スルノ意義ヲ減少ストノ懸念ヲ有セラルルヤモ知レサルモ支那ハ他國トノ不平等條約ハ早晚撤廢セラル可ク

日本トシテハ其撤廢ヲ衷心歡迎スルモノニシテ其存続ノ些シニテモ長クシテ且ツ之ニ均霑シタシト言フカ如キ意志ハ毫モ之ヲ有セサル次第ナリト説明シ更ニ進ンテ前回ニテ述ヘタルカ如ク關稅自主權ニ關シ承認ヲ以テ稅率協定ノ条件トナス事ナク又我方モ稅率ノ協定ヲ以テ自主權回復ノ条件トセサルニ付速ニ本會議ニテ稅率協定ノ商議ニ入ラン事ヲ懲慝セリ右ニ對シ外交總長ハ第一關稅率ノ問題ニ付テ貴公使ノ御説明ヲ諒解シタルモ關稅率ノ實施ハ尚二年後ノ事ニシテ其間物価ノ變動、國庫ノ需要等ヲ顧慮スルノ必要アリ今日ヨリ之ヲ定ムル事ハ事實上困難ナリ而シテ物価ノ点ハ現ニ上海ノ委員會ノ決定ノ結果ヲ参照シ度キ次第ナルモ右委員會ノ事業十分ニ進捗セサル次第ニシテ關稅率モ急速決定シ難キ事情ナリ尚又關稅率ナクトモ互惠稅率ノ

協定ハ必ラス不可能ノ事ニアラサルヘク

要スルニ互恵税率ハ国定税率ヨリモ低キ点カ要ナルヲ以テ互恵税率ノ協定ハ直ニ着手スル事ヲ得ヘシ但互恵税率協定ニ付テハ三箇ノ通則ニ依ル事ヲ要スト思考ス即チ

(一)協定品目ノ種類多キニ互ラサル事
(二)両国ノ特産品ニ限ル事

(三)両国間ノ貿易関係ノ変遷ニ顧ミ長期間ニ互ラサル事

之ナリト説明シ次テ外交総長ハ第二ノ最惠国約款ノ問題ニ言及シテ本問題ノ互恵税率協定ノ問題ト相容レサルモノナリヤ否ヤハ篤ト研究ヲ要スル次第ニシテ自分ハ此問題ニ付四箇ノ場合ヲ例示シタシ即チ

(一)或特定品ニ対シテ日本ト同時ニ他ノ国トノ間ニ異リタル

互恵税率ヲ協定スル場合(互恵ト互恵)

(二)或貨物ニ付日本トノ間ニモ互恵税率ノ協定ナキ場合(非

互恵ト非互恵)

(三)日本トノ間ニ其税率ノ協定ナクシテ他国ト互恵ノ協定スル場合(非互恵ト互恵)及ヒ

(四)日本トノ間ニ於テノミ互恵税率ニ関シ協定アル場合(互恵ト非互恵)

互ノ専門家ニ於テ審議ヲ為シ支那側ノ腹案ヲ日本側専門委員ニ内示セラレムコトヲ希望スル旨ヲ縷述セリ次テ第二最惠国約款ノ問題ニ就テハ外交総長ノ質問ニ対シテハ日本ノ均霑セムトスル場合ハ第一及第三ノ場合ナリ何レニスルモ日本側ハ理論上ヨリ言フモ實際問題ヨリスルモ支那カ他国ト互恵税率ノ協定又ハ其他如何ナル条約ヲ遂クル場合ニモ何レノ第三国ヨリモ不利益ノ地位ニ置カルコトヲ忍フコト能ハサル次第ヲ説明セリ右ニ対シテ外交総長ハ第一国定税率ノ問題ニ就テハ決シテ速ニ之ヲ制定スルコトヲ欲セサル次第ニアラサルモ上海委員会ノ結果ヲモ待チ居ル次第ニテ事實急速ニ制定シ難キ状態ナリ日本ノ如ク数十年前ニ自主権ノ回復シタル国ニ於テハ既ニ国定税率ノ制定アル次第ナルモ支那ニ於テハ今日其用意ナキ次第ナルカ国定税率実施數ヶ月前ニハ公布シ得ヘシト思考ス尤モ互恵税率ノ協定ハ必スシモ国定税率ノ完成ヲ要セサルヘキニ付貴国ニ於テ希望セラルルニ於テハ税率協定ヲ急クコトトシ同時ニ国定税率ノ制定ヲモ進ムルコトトシタシ猶税率ノ協定ハ日本カ支那ノ為セル自主権ニ関スル提案ノ趣旨ヲ承認スル事ヲ前提トシタキ所存ナリ就テハ之ニ対スル日本政府ノ意向ヲ至急

ノ四箇ノ場合ナリ貴公使ノ主張セラルル最惠国待遇ハ何レノ場合ニ相当スルヤト質問シタリ

之ニ対シ本使ハ第一国定税率ノ問題ニ就キ自主権回復ノ機ニ迫レルニアラサレハ国定税率ノ制定困難ナリトスルハ本使ノ承服セサル処ナリ凡ソ今後二年間ノ物価ノ変動及財政上ノ需要ニ依リテ国定税率ヲ決スト言ハルルモ日本ノ如キハ既ニ以前ヨリ税率ノ決定ヲ行ヒ居ル次第ニシテ支那側カ時々物価ノ変動財政上ノ需要ニ鑑ミテ国定税率ヲ制定スルノ必要アリトスルニ於テハ事實來年十二月迄ニハ其制定間ニ合ハヌコトナルヤモ知レス而シテ一旦制定後ニ於テモ度々重大ナル変動ヲ加フル必要ヲ生スルニ至ルヘク内外共大イニ不安ヲ感スヘキノミナラス日本側ニ於テハ既ニ以前ヨリ国定税率ノ制定アリ支那政府及国民ハ何時ニテモ之ヲ知り得ル状態ナルニモ拘ラス支那ノ税率ハ何等日本側ニ示サルコトナキニ於テハ非常ナル不公平ノ結果ヲ生シスル不公平ハ日本側列国ニ先ンシテ通商条約ノ改正ニ着手シ自主権ノ回復ニ第一ニ承認ヲ与ヘムトスル際ニ当リ支那側ノ行ハムトスル趣旨ニアラサルヘシ

兎ニ角国定税率ノ問題ハ互恵暫行税率ノ協定ト共ニ日支相

承知致シタシト述ヘ更ニ互恵税率ニ関スル前記三個ノ主義原則ヲ挙ケタリ次テ第二最惠国待遇ノ問題ニ就テハ支那カ今日迄最惠国約款ノ為ニ苦シミタル次第ヲ述ヘ日本側ニ於テモ此点ニ関スル格別ノ諒解ヲ望ム旨ヲ述ヘ猶次回ニ最惠国約款ニ関スル支那側意向ヲ詳細ニ陳述シタキ旨ヲ述ヘタリ結局国定税率ニ就テハ支那側ニ於テ其制定ヲ急キ税率協定ノ際其腹案ヲ成ルヘク詳細ニ日本側委員ニ示スヘキコトニ意見一致セリ次回ハ本週土曜日午後四時

上海、漢口、広東へ転電セリ

266 昭和2年2月18日 幣原外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

協定税率および最惠国待遇に関する我方の見解について

※第五号 本省 2月18日 發

貴電通第二三三三号ニ関シ

一、貴電通第二二二二号(六二四文書)今後ニ於ケル交渉ノ順序ニ関スル貴官

ノ腹案ニ付テハ今後ノ経過ニモ徴シ篤ト考慮ノ上追テ申進スル事ト致度シ

只関稅事項ニ付テハ大体貴見ノ通り交渉ヲ進ムル事ニ異存ナク又貴官ノ苦シキ立場モ充分諒解スルモ奈何セン往電通第四号ノ事情ニヨリ我方針ノ決定ニハ尚ホ旬日ヲ要スヘク特ニ関稅事項ニ関シテハ大蔵省トノ協議整ハサル今日支那側ニ対シ該事項丈ヲ切り離シ帝國政府ノ意向トシテ具体案ヲ提示スル事ハ我對内閣係上面白カラサルノミナラス具体案ヲ提出スルニ於テハ自然微細ノ点ニ立入り論議ヲ余儀ナクセラレ會議劈頭行詰リヲ生スルノ虞ナキニアラス且又先方ヨリ改訂提議ヲ為セルモノナレハ先ツ先方ノ提案ニツイテ巨細ノ質問ヲ試ムルハ当然ノ筋ト思考セラルルニ付今ノ内ニ全般ニ互リ會議及會議外ニ於テ先方ノ大体ノ腹ヲ探リ出来得レハ先方ヲ大体我方ノ意見ニ引付ケタル上我方ノ具体案ヲ提出スルコトト致度ニ付次回會議ニ於テハ前回ヨリ引続キノ最惠國待遇問題及往電通第四号ノ主ナル諸点ニ付先方ノ説明ヲ求メラルルコトト致度尤モ之カ為交渉決裂ノ虞アルカ如キ事態ニ立至ラハ更ニ考慮スヘキニ付其場合ニハ請訓アリ度シ

二、尚貴電通第二二二号協定稅率ニ関シ支那側提示ノ三原則ニ付テハ大体異存ナキモ右ハ互惠協定カ自主權回復ニ基

(二)最惠國待遇ハ自主權ト両立セスト論スルモ(一)之ヲ理論上ヨリ云ヘハ支那側力第三國トノ交渉ニ依リ之ヲ改廢シ得ヘク我方ハ最惠國待遇ニ依リ之ニ均霑スヘキ消極的權利ヲ有スルノミニシテ右條約關係ノ變更ニ容喙シ得ヘキモノニ非ス(四)之ヲ實際ニ徵スルニ互惠協定ハ兩國ノ重要品ニ付キ之ヲ行ヒ且國際産業ノ分業甚シキ今日ニ於テハ他國カ右互惠ノ全部ニ均霑スルカ如キコトハ事實上不可能ナリ現ニ戰後独伊、独仏間等ニ於テハ相当広キ範圍ノ互惠協定ヲ約シ同時ニ最惠國待遇ヲ保障シ居ル状態ニ在リ即チ支那カ本邦ノ外二三ノ國トノ間ニ互惠協定ヲ為ストスルモ諸外國カラ事實上均霑セサルカ如キ特殊品ヲ選定スルニ於テハ理論上稅權ヲ束縛セサルハ勿論實際ニ於テモ其財政上産業上差迄支障ヲ及ホスモノニアラサルヘシ

(三)又本條款ニ依ル均霑ハ通商航海條約關係事項ニ限り何等政治上ノ事項ニ及ホスモノニ非サルヲ以テ一般的ニ不平等條約ノ維持ヲ余儀ナクセラルル訳ニ非ス

昭和2年3月(日)

在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

ク兩國間貿易上ノ影響ヲ緩和スルト云フ根本ノ目的ニ反セサル範圍内ニ於テ之ヲ認ムヘキ筋合ノモノナルニ付方一支那側ヨリ重テ右三原則ノ承認ヲ求ムルカ如キ場合ニハ貴官ノ意見トシテ特ニ右ノ点ヲ明瞭ニシ置カレ度シ

三、最惠國待遇ニ関シ之カ挿入ヲ認メシムヘキ理由ハ多々アルモ余リ詳細ニ互リ深入リスルトキハ將來具体案ノ審議ニ不利ナル影響ヲ及ホス虞アルニ付既ニ貴官ノ述ヘラレタルコト以外大体左記要領ニテ応酬セラレ度シ

(一)最惠國條款ニヨリ我方ノ求ムル処ハ通商航海海上第三國ニ比シ不利ナル地位ニ立タス平等衡平ノ地位ニ置カレムコトヲ求ムルニ過キス右ハ今日文明國ニ於テ一般ニ認ムル通商條約上ノ原則ニシテ現ニ國際連盟ニ於テモ關稅戰爭乃至差別待遇ニ基ク國際紛争ノ防止上絶対ニ必要ナリトシテ所謂通商衡平待遇問題ノ一トシテ右原則ノ拡張普及ノ方法ヲ講シ居ル所ナルカ之ヲ採用セサル新條約ハ即チ通商上ノ差別待遇ヲ予想スルモノニシテ現行ノ不平等條約ニ代フルニ此ノ如キ條約ヲ以テスルコトハ夫レ自体支那側ノ高唱スル主義ニ背反スルモノニシテ我方トシテハ到底之ヲ承認シ難シ

北京政府側最惠國約款の有條件主義を表明に
ついて(第八回會議議事要領)

北京 本省 3月11日後着

※通第二八号

條約改訂第八回(三月十一日午後)議事要領左ノ如シ

外交總長ハ前回本使ノナシタル説明ニ關連シ利益交換ニ依リ成立シタル互惠條約ニ均霑スルハ同様ノ代償ヲ払フ事ヲ要スヘク即チ最惠國約款カ條件付ナラサルヘカラサル所以ヲ力説シテ本使ニ於テモ必スシモ主義上條件付トナスニ反對スルニアラサルカ如シト述ヘ尚日本ト他國トノ最惠國約款モ條件付ト解セラルル処果シテ如何ト問ヒタルニ付本使ハ稅率ノ問題ニ関シテハ條件付最惠國待遇トナスコト事實上困難ナルノミナラス或特定ノ貿易品カ國ニ依リテ異ナル待遇ヲ受クルハ通商公平ノ主義ニ反スルヲ以テ最惠國待遇ハ無條件ナラサルヘカラサル所以ヲ繰返シ説明シ尚日本ハ互惠稅率ニ付テモ最惠國約款ニ依リ無條件均霑ヲ認メ居ル次第ヲ詳述シタリ右ニ對シ外交總長ハ更ニ最惠國待遇ノ條件付ナラサルヘカラサル所以ヲ反覆シテ條件付最惠國約款

ナラハ支那側ニ於テモ考慮ノ余地アル旨ヲ言明シタル後進
ンテ支那側カ最惠国待遇ノ問題ニ付テ疑義ヲ懐カサルヘカ
ラサル所以ノモノハ支那ハ從來他国トノ間ニ片務的無条件
最惠国約款ヲ有スル為メ主權ニ重大ナル悪影響ヲ蒙リ居ル
次第二シテ今回新条約締結ニ於テ是非共此束縛ヲ免カレン
トスル次第ナルニ付日本側ノ諒解ヲ得度シト述ヘタル後今
日迄本問題ニ付テハ双方既ニ議論ヲ尽シ居ルト認メラルル
ニ付此際支那側ヨリ具体案ヲ提出シ議事促進ニ便シタシト
テ左ノ八点ノ提案ヲナシタリ

- (一)最惠国待遇ハ関稅稅率ニ限ラルル事
- (二)最惠国待遇ハ双務的ナル事
- (三)最惠国約款ノ適用ハ無条件ニテ特惠ヲ与フルト声明セル
場合ハ無条件ニテ右特惠ヲ与フル事トシ
- (四)条件アル場合ニハ之ト同様又ハ相当ナル条件ヲ以テ均霑
ヲ許ス趣旨トスル事
- (五)最惠国約款ニ依リ第三国トノ条約又ハ協定中ニ規定セル
之種ノ利益ニ均霑スル場合ニ於テ右第三国トノ条約又ハ
協定カ効力ヲ失ヒタル場合ニハ最惠国約款ニ依ル利益均
霑ヲ停止スル事

北京 發
本省 3月16日後着

※
通第三〇号

通商条約改訂會議第九回(三月十六日午前)議事要領左ノ
通り

一、本使ハ先ツ前回支那側提出ニカカル最惠国約款ニ関ス
ル八箇条ノ提案ニ対シ左ノ趣旨ノ意見ヲ述ヘタリ
貴方ヨリ八箇条ノ具体案提出セラレ交渉進捗ニ便セラレ
タル点ニ対シテハ謝意ヲ表スルモ右提案中賛成シ難キ点
鮮カラサルヲ遺憾トス

(一)支那側提案ノ主要点ハ最惠国待遇ノ規定ニハ異議ナキ
モ右ハ条件付ニシテ而モ関稅問題ニ限ルト云フニ在ル
処日本ノ主張ハ前ニモ度々述ヘタル通り通商航海全般
ノ事項ニ互リテ概括的最惠国約款ヲ挿入シ以テ如何ナ
ル第三国ヨリモ劣等ノ待遇ヲ受ケサル保障ヲ得ルニ在
リ就中現ニ問題トナリ居ル關係事項ニ付テハ全然無条
件最惠国待遇ヲ要求ス何トナレハ若シ然ラサルニ於テ
ハ仮令稅率ニ付テ互惠協定ヲ遂クルモ更ニ第三国カ日
本ノ貿易品ニ対シ一層有利ノ稅率ヲ得ルニ於テハ右日

(六)支那ト外国トノ現行條約ハ多クハ不平等不相互ノ原則ノ
上ニ成立シタルモノナルカ故支那ハ之等旧條約ノ改正ヲ
ナサントスル意向ナリ日本ト支那トノ改正條約定率ニ於
テ最惠国約款ヲ以テ此種旧條約ノ利益ニ均霑セントスル
ニ於テハ須ラク一定ノ期限ヲ付スルヲ要ス然ラズンハ一
面日支間ニ於テ平等相互ノ原則ヲ基礎トシテ新條約ノ議
定ニ從事シナカラ一面尚無期限ニ旧條約ヲ援用スル事ト
ナル斯クノ如キハ支那ノ條約改正ノ趣旨ニモ合セス恐ラ
ク又日本側ノ意志ニモアラサルヘシ

(七)前項ノ旧條約上ノ利益ニ均霑スル期間内ニ於テハ日支間
協定ノ互惠稅率ハ之ヲ適用セサルモノトス

(八)国境貿易ノ便利ヲ促進スル為メ之ニ関シテ遂ケラレタル
弁法ハ最惠国待遇ノ範圍内ニアラサル事

右ニテ支那側ノ希望ニヨリ會議ヲ終リ次回ハ來週水曜日午
前ト決定

628 昭和3年3月10日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

最惠国約款に関する八箇条提案に対する我方
の見解表明について(第九回會議議事要領)

本品ハ市場ヨリ驅逐セラルル事トナルヘク之日本ノ到
底忍フ所ニ非サルナリ又条件付最惠国約款ノ適用ハ事
実上複雑ニシテ幾多ノ困難アリ從テ少クトモ關稅ニ関
スル限り最惠国待遇ハ無条件ナラサル可カラス故ニ支
那提案第一及第三、第四ニ対シテハ之ニ同意ヲ表スル
能ハス

(二)日支ノ間ニ新條約締結ヲ見タルニ拘ハラズ支那ト何レ
カノ他国トノ間ニ尚條約ノ改訂ヲ了セサル場合ニ於テ
ハ日本ハ最惠国約款ニ依リ当然之ニ均霑スヘク支那政
府トシテハ寧ロ右他国トノ條約改正ヲ促進スル事ニ努
力ヲ向ケラル可キモノニシテ支那側提案第六ニ予見ス
ルカ如ク他国トノ條約ヲ無期限ニ繼續セシメツツ日本
トノ最惠国約款ニ付テノミ期限ヲ付セントスルハ妥当
ヲ欠クノミナラス甚タ均衡ヲ得サル措置ト云フヘシ

(三)支那側ノ云フ国境貿易ナルモノカ前ニ説明セル「パウ
ンダリー・トラフィック」ノ意味ナラハ提案第八ニ異
議ナキモ然ラスシテ例ヘハ支那ノ現行制度タル陸境三
分ノ一減稅ノ如キモノナラハ日本ハ当然之ヲ最惠約款
ノ適用範圍内トセサルヲ得ス

四以上ノ点ニ於テ満足ナル結果ヲ得ルニ於テハ第二、第五、第七ノ諸点ニ付テハ異存ナシ

二、之ニ対シ外交総長ハ第二、第五及第七ノ点ニ付テ日本側ノ諒解ヲ得テ満足スト述ヘ其他ノ点ニ対シ左ノ趣旨ヲ陳述セリ

(一)最惠国待遇ヲ関税問題ニ限ルハ元來関税事項ハ通商ノ主要事項ナルヲ以テナリ支那側ニ於テハ元來最惠国約款ノ挿入ハ主義上承認シ難キ次第ナルモ貴公使ノ固キ主張モアリ旁交渉促進ノ見地ヨリ考慮ヲ加ヘタル次第ナリ最惠国待遇ヲ通商航海条約全般ノ事項ニ及ホストキハ通商航海ノ範圍ハ広汎ニシテ人ニ依リ見解ヲ異ニスルニ付將來解釈上ノ紛糾ヲ避クル為今日最惠国待遇ノ適用範圍ニ制限ヲ設ケ通商上ノ主要事項タル関税問題ニ限りタキ支那側ノ趣旨ナリ

(二)最惠国約款ヲ条件付トスル趣旨ハ国際通商ノ自由平等ノ原則ニ依ラントスルニ外ナラス若シ支那カ甲国ニ対シテ或ル条件ヲ以テ低率ノ関税ヲ許ス場合日本ニ無条件ニテ之カ均霑ヲ許ストキハ甲国ニ対スル差別的取扱ヒトナルヘク又日本以外ノ他国モ無条件均霑ヲ主張ス

然レトモ将来国境貿易ニ付テ边境ニ於ケル特種ノ狀況ニ鑑ミ接壤国トノ間ニ協定ヲ遂クルノ必要アルヤモ測リ難ク右ノ如キハ他国ニ於テモ屢々之ヲ見ル処ナリ例ヘハ雲南、広東方面ト印度支那トノ間其接壤地方ノ貿易増進ノ為特別ノ規定ヲナスモ必スシモ之ヲ他ニ及ホスノ必要ナシト思考スル処貴公使ハ果シテ特別ノ国境貿易ヲ最惠国待遇ノ範圍内トナス次第ナリヤヲ承知シタシ

三、本使ハ之ニ対シ要領左ノ通從來ノ説明ヲ繰返シ応答シ置ケリ

(一)最惠国待遇ノ必要ナル所以ハ之迄度々説明シ特ニ第五回會議ニ於テモ既ニ之ヲ詳述セリ要スルニ日本ハ如何ナル第三国ニ比シテモ不利益ナル地位ニ置カレサル事ヲ要スト言フニアリ若シ一般通商航海ニ関シ最惠国約款ナキニ於テハ差別待遇ヲ實現スル事トナリ総長ノ力説スル通商上ノ自由平等主義ニ悖ル事トナルヘシ

(二)関税事項ニ関シテハ条件付最惠待遇ヲ承認セラレタルカ元來条件付主義ハ米國ノ採用スル処ナルモ日米ノ間ニハ関税ニ付テハ全然無条件ニ均霑ヲ許シ居ル有様ニ

ルトキハ結局支那一人不利益ヲ蒙リ通商不平等ノ地位ニ置カルルニ至リ自由平等ノ主義ニ反スヘシ從テ真ノ通商ノ自由平等ハ条件付最惠国待遇ニ依ルニ非サレハ之ヲ維持スルコト能ハサルヘシ支那ハ日本ノ貿易品ニ対シ差別的待遇ヲ与フル意思毫モナシ日本カ若シ相当ノ条件ヲ以テセハ支那ト第三国トノ間ノ特惠ニ均霑シ得ヘキハ勿論ナリ就テハ此点是非御諒解ヲ望ム

(三)目下支那ハ条約ノ改訂ニ努力シ居リ幸ヒ日支間ニ交渉成立スルモ日本カ最惠国約款ニ依リ際限ナク他国トノ不平等条約ニ均霑スルコトヲ許スニ於テハ支那一般ノ誤解ヲ招クコトトナルヘク茲ニ期限ヲ付スルト云フ趣旨ハ此ノ誤解ヲ防キ折角交渉成立セル新条約ノ実施ヲ速ニ實現セントスルノ熱望ヲ表現セントスルニアリ又事實上ニ於テモ日本側ハ右期限ヲ付スルコトニ依リ互惠協定実施ノ期ヲ早ムルコトヲ得日本側ニ取り不利益ナカルヘシ

(四)広義ノ国境貿易ニ二種アルコトノ御説明アリタルカ二者ノ區別ハ實際上困難ナリ陸路貿易ニ付テハ華府条約ノ規定ニ依リ支那ハ陸海画一ノ方針ヲ採リツツアリ

シテ又関税事項ニ付条件付最惠国主義ヲ執ル時ハ實際上種々ノ困難ヲ生スヘキハ前述ノ通ナリ且又從來述ヘ来リタルカ如ク無条件主義ヲトルモ互惠税率ノ協定ニ際シテハ専門家ニ依リテ然ルヘク品目ノ協定ヲ行フヘキニ付均霑ノ範圍ニ付テ甚タシク懸念スルノ要ナシ

(三)国際通商自由平等ノ原則ニ同意セラレ且日本ノ貿易ニ対シ差別待遇ヲ与ヘストノ御意向ナル処他国ノ旧条約存在スル間之ニ均霑セシムル事即チ右ノ趣旨ニ合スル所以ニシテ若シ然ラサレハ日本ニ対シ差別待遇ヲ与フル事トナルヘク之日本ノ承諾シ能ハサル所以ナリ

(四)支那側ノ所謂特殊ノ国境貿易ノ趣旨カ本使ノ説明セル「バウンダリー・トラフィック」ノ意義ナリヤ不明ナルモ若シ然リトセハ之ヲ最惠国待遇適用ヨリ除外スルニ異存ナキモ普通ノ国境貿易ナラハ右適用ノ範圍内ニ在ル事ヲ主張セサルヲ得ス華府条約ニ依リ陸海画一主義ハ決定セリト言フモ普通ノ陸境関税ニシテ現ニ存在スル以上日本ハ之ニ均霑ヲ要求セサルヲ得ス

次回ハ金曜午後三時

629 昭和2年3月18日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

中国側提案通商条約改訂文の全貌について

北京 発
本省 3月18日後着

第二六九号
往電第二六二号ニ関シ

支那側提案全文入手シタルカ大体支那條約ニ準シ更ニ平等ノ形式ヲ嚴格ニセルモノニシテ左ノ諸点ヨリ成立ス

第一条 永久平和ノ維持

第二条 外交官領事官領事委任上領事ノ特權及名譽領事

第三条 締約国民ノ法權服從ノ義務

第四条 入国ノ際査証旅券所持ノ義務

第五条 生命財産ノ保護旅行居住商工業ノ自由(壙地利条

約第一条 此ノ点ハ支那ノ我方ニ対スル提案第(三)ト規定

ノ仕方ヲ異ニス)

第六条 警察課税法規服從ノ義務(支那ノ我方ニ対スル提

案第四) 壙第一条)

第七条 徴兵之ニ代ルヘキ課金及強制公債免除

第八条 労働者待遇(壙第五条ト同様ノ規定ニシテ労働者

630 昭和2年4月10日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

最惠国約款に関する日中専門家会合議事要領

について

別 電一 四月十日着在中国芳沢公使より幣原外務大臣

宛通第四六号

中国側提案

二 四月十日着在中国芳沢公使より幣原外務大臣

宛通第四七号

日本側提案

北京 発
本省 4月10日後着

通第四五号

往電通第四一号末段ニ関シ

四月五日専門家会合(日本側重光支那側金政務科長)シタル処結果要領左ノ通り

一、先ツ支那側ハ別電通第四六号ノ通り提案シ(但括弧内

ヲ除ク)右ハ大体本會議ニ於テ双方合意セル条件中ノ三

点ノミニ就テ立案セルモノナリ本文ニ就テハ既ニ本會議

ニ於テ提出セル支那案ノ通りナリト説明セルニ付日本側

ハ右三点ニ就テモ未タ何等双方ノ意見纏リ居ルモノニア

ノ入国ニ付テモ明カニ最惠国待遇ヲ要求シ居ルモノト認
メラル)

第九条 領事遺産管理權

第十条 関稅規定(我方ニ対スル支那側提案ト同様 壙第

八条第一項)

第一条 税関手續ノ義務(壙第九条)

第二条 通商航海ノ自由及沿岸貿易(我方ニ対スル提案

第二ト同様)

第一三条 輸出入禁止制限ニ関スル最惠待遇及其ノ例外

第一四條 船籍規定

第一五條 難破船

第一六條 脱船者

第一七條 条約適用ノ除外事項(本条ハ他ニ例無キ程広汎

ナル例外規定ニシテ御参考迄別電ス)

第一八條 平等相互ノ原則(壙第一七條ニ往電第二六二号

英文ヲ付加シタルモノ)

第一九條 用語(和支仏ニテ英語ヲ解釈語トス)

第二〇條 批准条項

ラサルコトヲ指摘シ別電通第四七号ノ通り仮リニ草案ヲ
作りタリ第一項ハ日本側最小限度ノ主張ニシテ第二項ハ
実ハ支那側ノ主張ヲ參酌シテ記載セルモノナルコトヲ説
明シ双方ノ案ニ就キ長時間審議ノ結果結局日本案第二項
及支那案第一項(括弧内ヲ挿入シ)ニ就テハ双方ヨリ公
使及総長ニ「レコメンド」シタル点日本側第一項及支那
案第二項ハ本會議ニ於テ内容ニ就キ更ニ討議スルコトト
ナレリ

二、右会合ノ際支那側ハ均霑ニ期限ヲ付スルコトハ仮令概
略ナリトモ(括弧内ノ趣旨ニテ可ナルニ付是非必要ナリ)
一、主要国(英米二国ニ限ル)トノ間ニ於テ右期限迄条約
改訂出来サルニ於テハ例ヘハ六ヶ月ヲ期間トシテ更ニ延
期シ差支ナキモ葡萄牙国ノ如キ国ト条約改正出来サル為
何日迄モ均霑スルハ不条理ナリト主張シタルカ日本側ハ
支那側カ他国トノ間ニ於テ速ニ条約改正事業ニ成功セム
コトハ日本ノ衷心希望スル処ナルモ右ハ支那側ノ努力ス
ヘキ処ニシテ日本トノ条約文ニ記載スヘキ事項ニアラス
特ニ英米二国ノミニ均霑ヲ認メサルハ全然日本ノ貿易状
況ヲ無視スルモノニシテ要スルニ日本側ハ右ノ如ク均霑

ニ期限ヲ付スルハ不条理ニシテ之ニ賛成スルコト到底困難ナルコトヲ委曲説明シ猶日本案第一項ハ我方主張ノ骨子ニシテ日本案第二項及支那案第一項ハ共ニ元々支那側ノ希望ニ基クモノナルカ之ヲ上司ニ「レコメンダ」スルコトヲ承諾セルハ日本側ニ於テ特ニ妥協ノ精神ヲ示シタル次第ニ付日本案第一項ニ就テハ支那側ニ於テ速ニ賛成セラレタキ旨ヲ各方面ヨリ説述シタルカ先方ニ於テハ結局期限ノ点ニ就テ日本側ニ何トカ色ヲ着ケ呉ルルニ於テハ此点ニ就キ賛成シ得ヘキ意向ヲ洩ラシ居タリ猶右ノ会合ノ際日本側最惠国約款挿入ノ考案ニ就キ説明シ関稅事項以外ニ就テモ一般的最惠国約款及關稅以外ノ事項ニ就テモ夫々個々ニ規定スルノ要アル旨ヲモ説明シ置キタリ

(別 冊 1)

Peking,

Rec'd, April 10th a. m. 1927.

Gaimudajin, Tokio.

tuu No. 46

It is understood that either Contracting Party shall

the reciprocity tariff agreement which may be concluded between China and Japan shall not be put into effect.

Yoshizawa.

(別 冊 1)

Peking,

Received, April 10th a. m. 1927.

Gaimudajin, Tokio.

tuu No. 47.

It is agreed that as regards Customs tariffs, either Contracting Party shall be entitled immediately and without condition to whatever rights, privileges or concession that Contracting Party has actually granted or may hereafter grant to the articles or products of a third country or to its nationals. It is further agreed that whatever reciprocity agreement may be concluded between China and Japan shall not be put into effect before the enforcement of the national tariff

not continue to enjoy or claim to enjoy (by virtue of the most-favoured-nation clause) any tariff concessions which the other Contracting Party may grant to the articles or products of a third country, if and when the original grant is terminated or relinquished. It is further understood that the Government of the Republic of China intend to enforce their National Tariff Law on January 1st, 1929, and that the Imperial Government of Japan, in view of this understanding, agree not to enjoy nor to claim to enjoy any tariff concessions under existing treaties between China and other country than Japan on and from the said date of January 1st, 1929. (After a certain date approximately fixed on December 31st, 1928.)

It is further understood that so long as the Most-favoured-nation clause as provide in the New Commercial Treaty made between China and Japan remains applicable to the tariff concessions under existing treaties between China and other countries than Japan,

law of China.

Yoshizawa.

631 昭和2年4月22日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

外交部より条約改訂期間延長に関する公文持

参こころ

付記 顧外交総長より在中国芳沢公使宛右公文訳

北京 発
本省 4月22日前着

※通第五四号

往電通第五二号ニ関シ

四月二十日沈秘書來館本使差支ヘノ為館員ニ面会ノ上右往電ノ内容ヲ有スル公文ヲ渡シ総長ノ伝言ナリトテ実ハ公文内示ニ対シ日本側ノ意向ヲモ承リタル上正式發送ノ予定ナリシモ期日モ既ニ到来シ且日本内閣ノ更迭アリ余リ時日遷延シ難キニ付本公文持參ノコトニナリタル次第ト告ケ尚余談トシテハ右公文未段留保ノ趣旨ハ前電ノ通り内政上ノ理由ニ基クモノニシテ期日到来ノ際ハ更ニ期限延長ヲ考量スル意味ヲモ含マシメ居ル趣旨ナリト説明セル趣ナリ御承知ノ通り昨日ヲ以テ期限満了シタル次第ニモアリ速カニ公

文交換ヲ要スルニ付至急何分ノ御電訓ヲ請フ

(付記)

照会

以書翰啓上致候陳者曩ニ民国十五年十月二十日日本国政府ハ光緒二十二年六月十一日締結ノ日支通商航海条約、同二十九年八月十八日締結ノ追加条約並ニ兩条約ニ付屬セル一切ノ議定書及付屬文書ヲ相互平等ノ原則ニ基キ根本的ニ改訂致度且条文ノ規定ニ從ヒ期限滿了後六箇月以内ニ新条約ヲ完成セムコトヲ希望スル旨ヲ提議シ目下日支通商条約改訂會議ハ既ニ回ヲ重ネルコト十五次ニ及ヒタルモ審議スヘキ問題甚タ多キ為未タ期間内ニ會議ヲ完了スルコト能ハス既ニ本日ヲ以テ予定期間ハ滿了セントスルニ至レリ依テ本國政府ハ茲ニ新条約ヲ促進完成スル為本年四月二十一日ヨリ起草シテ期間ヲ三ヶ月延長シ以テ双方引続キ努力ノ上新条約ヲ締結スルニ便ナラシメムコトヲ提議ス尤モ本件期間延長ニ際シ本國政府ハ昨年十月二十日日本部ヨリ貴公使ニ宛テタル条約改訂提議ニ關スル照会中ニ於テ指摘シタル本國政府ノ当然有スヘキ權利ニ關シテハ依然之ヲ留保スヘキ旨併

立場ヨリ有利ナリト認メラルルニ付支那側ノ削除ヲ求ムルコトナク別電ノ案文ニ依ラレ度シ(三)支那側來翰ハ公文覺書執レニテモ可ナルモ我方往翰ハ本件条約改正承諾ニ關スル例ニ準シ覺書ノ形トセラレ日付ハ四月十九日以前トセラレ度シ尚本電ノ通り決定セハ交換ヲ了シ差支ナシ

(別電)

本省 4月22日 発

通第一一号

覺書

日本公使館ハ日支間ニ現存スル通商航海ニ關スル諸条約及付屬議定書改訂ノ提議ヲ承諾シタル大正十五年十一月十日付帝國政府ノ覺書ニ基キ現ニ北京ニ於テ進行中ナル本件改訂商議期間ノ延長ヲ提議セル四月十九日付外交部公文(又ハ覺書)ヲ接受シタル処帝國政府ニ於テハ右外交部ノ提議ヲ承諾シ該商議ノ期間ヲ本年四月二十日ヨリ起算シ三ヶ月間延長スルコトニ同意ス尤モ前記外交部公文末段ニ於テ留保セラレタル權利ニ關シテハ帝國政府ハ前頭大正十五年十一月十日付帝國政府覺書ニ於テ為シタル留保ヲ依然維持ス

セテ声明ス

右御査照ノ上貴国政府ニ轉達相成度此段照会得貴意候

敬具

632 昭和2年4月22日

田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

条約改訂期間延長に關する我方回答案についで

別電

四月二十二日付田中外務大臣より在中国芳沢公使宛通第一一号

使宛通第一一号

条約改訂期間延長に關する日本側回答案

本省 4月22日後発

通第一〇号

貴電通第五二号ニ關シ

支那側公文案ニ対スル我方回答案ハ別電通第一一号ノ通ナルカ(一)支那案記載ノ四月二十一日ハ条約第二十六条ノ字句(英文)並ニ条約有効期間算定ニ關スル國際慣例及我方從來ノ取扱振ニ顧ミ四月二十日ト修正セシメラレ度シ(二)支那案「尤モ」以下ノ留保ニ付テハ貴電通第五三号ノ事情モアリ我方トシテモ今一應權利ノ留保ヲ為シ置ク方条約維持ノ

ルモノナルコトヲ併セテ言明スル旨茲ニ通告スルノ光榮ヲ有ス

633 昭和2年5月(7)日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

日本側最惠国約款の無条件主義に關し見解表明について(第十九回會議議事要領)

別電

五月六日着在中国芳沢公使より田中外務大臣宛通第六五号

無条件一般的最惠国約款に關する芳沢公使の説
明

北京 5月7日前着

本省

通第六四号

条約改訂會議第十九回(五月六日午前)議事要領左ノ通

(一) 本使ハ前回予告ノ通り先ツ日本側ノ主張スル無条件主義一般最惠国約款ニ付テ詳細ニ互リ大要別電通第六五号ノ通説述シタル

(二) 之ニ対シ外交總長ハ有益ナル説述ナリトテ謝意ヲ表シタル後「支那側ノ主張モ貴公使説述ノ通り國際間ニ承認セラレタル general practice 又ハ usage ナル事ニ主義

トシテ何等異議ナシ御説ノ通り最惠国約款ニ対スル濫用ノ懸念ハ主トシテ從來ノ片務的条約ニ在リ吾人ハ其改訂ニ努力シツツ在ル次第ナルカ最惠国約款ノ事態ニ付テモ scope 又ハ application ニ付テ濫用セラレ条約ノ運用又ハ解釈ノ甚タシク拡大セラレ居タルハ事実ニシテ特ニ無条件最惠国約款ニ付テ支那側ニ大ナル不安ノ存スル所以ナリ但前述ノ通自分モ国際通義ニ順応スルハ大体ニ於テ異議ナキ所ナルカ右ハ単ニ最惠国問題ノミニ止マラス条約全般ニ互リ同様ノ取扱ヲナスヲ要スヘク若シ他ノ諸問題ニ付テ同様ノ主義ニ依ル事トナラハ例ヘハ navigation ノ問題ノ如キ日本ト他国トノ条約ニモ規定セル通全然各自ノ国内法ニ依ル事トスルカ如キ事トナラハ(支那提案(二)ノ第二項参照)最惠国約款ニ付テ日本ノ主張ヲ考量スルニ好都合トナルヘシ何レニスルモ一般的最惠国問題ハ御説明ニ依リテモ明カナルカ如ク条約中ノ他ノ殆ト全部ノ問題ト密接ノ関係ヲ有スルニ付之ヲ引離シテ他ノ問題ノ討議ニ移リテハ如何現状ニ於テハ支那側ハ一般最惠国約款及ヒ其他個々ノ事項ニ付テ有條件主義ノ採用ヲ見ル(脱)^(マ)ノ関稅事項ニ関シ無条件主義

※第六五号

本使ハ五月六日ノ會議ニ於テ幸ヒ一般的最惠国約款問題ニ付更ニ我立場ヲ十分ニ主張スルノ機会ヲ得タルヲ以テ大体左ノ要領ヲ以テ論述シ置キタリ

一、國際間ノ条約

一般的最惠国約款ヲ通商条約中ニ挿入スル事ハ一般國際間ノ通例ニシテ殆ト例外ナク此点ニ関シテハ既ニ異論ノ存在セサル処ト認メラル一般的最惠国約款ヲ無条件最惠国(脱)^(マ)トナスヤ將又有条件主義トナスヤノ問題ハ過去ニ於テ國際間ノ争ヒアリタル点ナルカ現代ニ於テハ無条件主義ハ國際間ニ確立セラレタル原則ト認ムルヲ得ルニ至レリ

第一、日支兩國共其有力ナル一員タル國際連盟ニ於テハ其規約第二十三条(ホ)ニ於テ「交通及ヒ通過ノ自由並ニ通商ニ關スル公平待遇」ノ大原則承認セラレ右根本原則ハ一九二三年六月第七回國際連盟總會ニ於テ同月二十七日ノ決議ヲ以テ無条件均霑主義ハ明確ニ採用セラレタリ其後國際連盟ニ於テハ或ハ交通委員會ニ於テ或ハ經濟委員會ニ於テ右ノ趣旨ハ漸次伸張セラレ又ハ具体化セラレ来リ國際間ノ交通及ヒ通過ノ自由並ニ通商ノ自由公平ノ主義ハ議論ノ時

ヲ採用スルニ適當ノ材料ヲ加フヘシト言ヒ得ルニ過キス」トノ趣旨ヲ述ヘ更ニ本使ノ質問ニ答ヘ今後討議スヘキ他ノ事項ト言フハ大体二月一日支那側提案覽書ニ記載セラレ居ル事項ヲ指スモノナルモ条約全文ノ草案モ大体出来居ルニ付近々提示シ得ヘキ旨ヲ述ヘタリ

(三)之ニ対シ本使ハ今日迄最惠国約款ノ問題ニ付十七八回ノ会合ヲ重ネ大体双方ノ意見モ判明セルニ付此問題ニ付具体的成果ヲ挙クル為尙討議ヲ進ムル事可然旨ヲ述ヘタルニ総長ハ一般的最惠国約款ノ問題ハ其關連スル処甚タ広ク到底夫レノミ引離シ決定シ難キ事ヲ繰返シ近々条約草案全文ヲ送り越スヘキ旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ最惠国約款問題ヲ此儘トシテ他ノ問題ノ討議ニ移ルコトニ付テハ一応考慮致度兎ニ角条約草案ハ速ニ送付アリ度キ旨ヲ述ヘ次回ハ仮ニ來週金曜日ト定メタリ

本電別電ト共ニ上海、漢口、広東へ転電シ広東ヨリ香港へ暗送セシム

(別電)

北京 5月6日後着
本省

代ヲ過キタリ國際間ノ通過經濟關係ニ於テ何等ノ制限及ヒ条件無クシテ自由ニ他国ノ有スル利益ニ均霑スルハ即チ右主義ノ適用ニシテ即チ無条件均霑主義ノ目的ナリ

第二、無条件主義ハ元來歐洲ニ採用セラレタルモノナル処十九世紀以來歐洲各国間ノ条約又ハ歐洲諸国ト「アジア」ノ諸国トノ間ノ通商条約ニ於テハ皆無条件主義ノ挿入セラレ居ル次第ニシテ有条件主義ノ採用セラレ居ル例ヲ見ス而シテ最近ノ一般傾向ハ益々無条件主義ノ採用セララルル状態ナリ

第三、由來米國ハ有条件主義ヲ採用シ居リタルモ最近ハ全然態度ヲ變更シ國際連盟ノ支持スル趣旨ニ参加シ無条件主義採用ニ決シ着々之ヲ實現シツツアルハ度々説明セル通ニシテ第十二回會議ニ於テ本使ノ披露セル米國國務卿ノ宣言ニ依リテモ明カナル通り之ヲ要スルニ交通及ヒ通過ノ自由並ニ通商ノ自由公平ノ主義ハ國際經濟生活ヲ貿易及ヒ通商ノ關係ニ於テ平等ノ地步ニ置クコトヲ要求スルモノニシテ之ヲ換言セハ現代國際關係ハ通商交通關係ニ於テ何等差別待遇又ハ障害トナルヘキ如何ナル事柄ヲモ除去スルコトヲ要望スル次第ナリ然ルニ無条件主義ナルモノハ抑其ノ觀念

ノ根底ニ於テ差別待遇ノ思想ヲ有スルモノニシテ右國際通
義ニ適合セサルモノトス

二、以上ハ無条件最惠國約款主義カ平等相互ヲ基礎トセル
近代条約中ニ承認セラルル理由ナル処支那側カ是レ迄度々
表示セラレタル無条件主義ノ乱用ニ付テ一言セントス

第一、(?) 過去ニ於テ無条件最惠國約款ノ濫用セラレタ
ルハ最惠國約款其物ノ結果ニ非スシテ最惠國約款ノ適用ヲ
許ス支那ト他國トノ條約ノ結果ナリ若シ條約ノ改正行ハル
ルニ於テハ此ノ濫用ハ当然消滅スヘシト思考ス換言スレハ
最惠國約款ハ通商航海事項ノ通商條約ニ規定セラルル事柄
ニ限ラレ政治問題ニ及ハサル次第ナリ

三、一般的最惠國約款ハ一般條約ノ問題トシテ原則ノ規定
ニ外ナラス然レ共右原則ニハ實際問題トシテ各個ノ場合ニ
於テハ例外的規定ヲ設クルモ亦已ムヲ得サルナリ從テ關稅
事項ニ關スル限り之ヲ有條件トナスコト能ハサルハ勿論ナ
ルモ其他ノ事項ニ付テハ支那側ノ希望ニ応スル為最惠國約
款 on condition of reciprocity 等ノ主旨ヲ以テ規定ス
ルニ異存ナキモノモアルヘシ(トテ日本ト英米仏独等トノ
條約中ニ規定シアル右ノ如キ最惠國約款ノ規定ヲ朗誦シテ

ト勿論ノ議ナルニ付仮ニ支那側ノ提議ニ応シ前記各個ノ事
項ノ討議ニ移ルモ是亦關稅事項ト同様商議妥結ヲ見ルコト
困難ナルヘキヲ以テ出来得ヘクハ引續キ關稅事項ニ付具体
案ヲ得ルコトト致シタキモ貴電通第六七号ノ事情モアリ他
方貴電通第六四号關稅事項ニ關スル支那側ノ言明ハ頗ル不
満足ナルヲ以テ此際我方ニ於テハ一般約款問題ハ各個ノ事
項ト併セテ討議スルニ異存ナキコトヲ言明スルト共ニ支那
側ヲシテ關稅事項ニ付テハ無条件最惠國約款ヲ認ムル旨ノ
言明ヲ為サシメ之ヲ議事録ニ記載シタル上ニテ各個ノ事項
ノ討議ニ入ルコトト致シタキニ付右ノ趣旨ニテ可然措置セ
ラレタシ

633 昭和2年5月(4)日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

顧外交総長による關稅に關する無条件最惠國
約款拒否について

※
通第六八号

北京 1913年5月14日前着
本省

(一) 第十九回會議ニ於テハ仮ニ本十三日會議統行ノ事ニ

支那側ノ参考ニ供シタリ)

以上ノ如ク無条件主義ハ一般ノ大勢ニシテ原則ナリ日本ハ
終始此ノ主義ヲ以テ一貫シ居ル次第ニシテ右ハ世界一般ノ
通義ニ從フ所以ナルニ付此ノ点ニ關シ支那側ニ於テモ同意
ヲ表セラレムコトヲ希望ス

634 昭和2年5月11日

田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

關稅に關する無条件最惠國約款を認める旨の
中国側の言明を議事録に記載の上個別事項の
討議に入るべき旨訓令について

※
通第一六号

本省 5月11日後発

貴電通第六六号ニ関シ

我方トシテハ關稅事項及一般最惠國約款以外ノ各個ノ通商
事項ニ付平等條約ノ例ニ準シ国内法又ハ相互主義適當ノ方
法ニ依リ制限ヲ加フルニ主義上異議ナキモ右事項ニ付テモ
現ニ外國ニ許与セル特惠ハ勿論將來ノ特惠ニ付テモ無条件
均霑ヲ保障スル為メ前記制限ノ範圍内ニ於テ一般條約ニ於
ケルト同シク無条件最惠國待遇ヲ併テ規定スル必要アルコ

打合セタル次第ナルカ貴電通第一六号御訓令ニ接シタルニ
付會議前次支那側ト打合せ置ク事必要ト認メ十二日重光

ヲシテ王次長ヲ往訪我方ノ主張ヲ伝ヘ先方ニ於テ十分考慮
シ會議ノ進捗ヲ計ル様申入レ置カシメタルニ次長ハ総長ト
相談ノ結果十三日午前總長ニ於テ本使ノ來訪ヲ求メ協議シ
タシトノ事ナリシニ付(其際王次長ハ重光ニ對シ關稅事項
ニ關スル最惠國約款ニ付テハ現ニ双方意見ノ接近ヲ見居ル
次第ニ付非常ナル困難モ無カルヘキ旨ヲ洩ラセル由)本日
ノ會議ハ之ヲ中止シ本使ノミ總長ヲ往訪シタル処

(二) 顧ハ先ツ貴我双方ノ主張カ行詰リトナリタルニ付テ
ハ一時最惠國約款ニ關スル問題ニ移リ度ト言フ考ヘナルカ
日本政府ノ意向果シテ如何ト尋ネタルニ付本使ハ御電訓ノ
趣旨ニ基キ応酬シタル処顧ハ關稅事項ニ付無条件最惠國約
款ヲ認ムル旨ノ聲明ヲナシ之ヲ議事録ニ記載スルコトハ遺
憾ナカラ到底承諾出来難シ何トナレハ若シ之ヲ承諾スル位
ナラハ疾ク本會議ニ於テ貴公使ノ主張ニ對シ直ニ同意ヲ表
シ些シモ差支ヘナキ事ナリ然ルニ支那政府トシテハ右ハ困
難ナルヲ以テ今日迄論議ヲ重ネ来リタル次第ニシテ併シ此
上更ニ論争ヲ重ヌル事ハ余リニ他ノ問題ノ討議ヲ遅延セシ

ムルモノアルニ付本問題ハ暫ク放置シ他ノ問題ノ討議ヲ進ムレハ其間ニ最惠国約款問題ノ解決ヲ容易ナラシムル途開カルルヤモ測リ難シト言フ希望ヲ有スル次第ナリ然ルニ只今関稅ニ関スル最惠国約款問題ニ付無条件主義ヲ承諾スルニ於テハ関稅問題ニ関スル限り最惠国約款ハ決定スル訳ナリト述ヘタルニ対シ本使ハ関稅ニ関スル最惠国約款ハ我方ニ於テ絶対ニ無条件ヲ主張スル次第ニシテ独リ我方ニ於テノミナラス日本ト各国トノ条約締結ニ徴シ各国モ亦之ヲ認メタル次第ナリ貴總長ハ今後各国トノ条約改正ノ討議ヲナス際関稅ニ関スル最惠国約款ヲ有条件トシ得ル見込アリヤト尋ネタルニ顧ハ之ニ努力スル積リナリト答ヘタリ

依テ本使ハ我方ノ立場ハ極メテ明白ニシテ他ノ諸問題ノ討議ニ進ムモ進マサルモ此条款ハ絶対無条件タルヲ主張スル次第ナリ関稅ニ対スル最惠国約款力無条件トナラサル以上他ノ問題ノ討議ニ移ルモ無用ナリ此故ニ總長カ他ノ諸問題ノ討議ニ移ル事ヲ提議セラレタル機會ヲ以テ總長ニ於テ前記ノ如キ言明ヲナシ之ヲ議事録ニ記載スル事ヲ申出テタル次第ナリ元來總長ハ我方ニ於テ一般最惠国約款ヲ若シ有條件ニテモ差支ヘナシト言フ保障ヲ与フルニ於テハ関稅ニ関

スル最惠国約款ヲ無条件トスル事ニ付考量ヲ加フルモ差支無シト言フ言明ヲナシタル位ナルニ付今一步進ムレハ將ニ日本政府ノ希望ニ合致スル次第ナリト述ヘタル処

顧ハ若シ双方ノ主張カ如何ニスルモ合致セサル場合ニハ何レカ一方カ其ノ主張ヲ留保シテ討議ヲ進ムルコトハ国際談判ノ際屢々經驗スルコトナリ從テ貴方ニ於テモ関稅事項ニ関スル最惠国約款ハ飽迄無条件ナラサル可ラストノ主張ヲ留保シテ之ヲ議事録ニ記載シ又ハ其他ノ方法ニテ其ノ留保ヲ明ニシテ談判ヲ進ムルコトトシテハ如何ト述ヘタルヲ以テ

本使ハ関稅ニ関スル最惠国約款ハ我方ニ於テ最モ重キヲ置ク点ナルカ故ニ此ノ問題ニ関スル談判大イニ進捗シタル此ノ際之ヲ決定シ置キタキ希望ナリ尤モ總長ニ於テ関稅ニ関シ無条件最惠国約款ヲ認ムル旨ノ声明ヲ為スコト困難トセハ例ヘハ必スシモ声明ナラストスルモ「リマーカー」トカ「オブザーベーション」トカ若ハ（不明）其ノ意思ヲ表明スルコト能ハスヤ本問題ヲ此ノ儘トシ他ノ諸問題ノ討議ニ移ルトスルモ本問題ニ関スル差當リノ態度ヲ今後変更スルカ如キコト絶対ニアリ得ヘカラサルカ故ニ此ノ際取極メル

モ其ノ結果ニ於テハ同様ナリト述ヘタル処顧モ亦遂ニ讓歩セサリシ為其ノ儘別レタリ

(三) 前記ノ通支那側ノ意向ハ本問題ヲ将来何等カノ交換問題トスル為討議ヲ他ノ問題ニ移サンコトヲ希望シ居ルモノト察セラル尚本日ノ会見ニ於テ顧總長ハ一兩日中ニ条約全部ノ草案ヲ送付シ得ル旨ヲ述ヘタルカ何レニスルモ本問題ニ付支那側ニ於テ我主張ヲ認ムルニ非サレハ仮令會議停頓スルモ議事進捗ノ余地ナキコトヲ支那側ニ明示スルコト然ルヘシト思考スル処此ノ点ニ関スル政府ノ御意向御回訓ヲ請フ

636 昭和2年5月(5)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

外交部より通商条約案提示について

別電 五月十五日着在中国芳沢公使より田中外務大臣

宛通第七〇号

中国側の条約草案

北京

発

本省 5月15日後着

※通第六九号

五月十四日夕刻外交総部陳秘書本使ヲ來訪總長ノ命ニ依リ

別ニ電報スル条約案ヲ本使ニ手交セリ本使ハ右一覽ノ上内容ニ付テハ幾多賛同シ難キ点アルモ政府ニ電報シ篤ト研究ノ上何分ノ回答ヲナスヘキ旨答ヘ置キタリ不取敢

(別電)

北京

発

本省 5月15日後着

※通第七〇号

支那側提出ノ条約草案標題ハ白耳義ニ対スル提案ノ標題ト同様

第一条ハ同上第一条ト同様(永久平和)

第二条ハ同上第二条ト同文(外交官領事官)

第三条第一項ハ同上第五条第一項ト同様

同条第二項ハ別電通第七一号ノ通(保護規程)

第四条ハ同上第三条ト同様(主權承認)

第五条ハ別電通第七二号ノ通(租界返還)

第六条ハ同上第六条ト同様(法律遵守)

第七条ハ同上第七条ト同文(徴兵免除)

第八条ハ同上第八条ト同文(労働者)

第九条ハ同上第九条ト同文(遺産)

第十条ハ既ニ提案済ノ関稅自主權ニ關スル条文

第十一条ハ同上第十一条ト同文(稅關)

第十二条ハ同上第十二条一項中段 which are open to foreign trade 通商自由)

第十三条ハ別電通第七三號ノ通(沿岸貿易)

第十四条ハ同上第十三条ト同文(輸入禁止及ヒ制限)

第十五条ハ同上第十四条ト同様(船籍)

第十六条ハ同上第十五条ト同文(難破船)

第十七条ハ同上第十六条ト同文(逃亡水兵)

第十八条ハ同上第十七条ト同文(例外規程)

第十九条ハ同上第十八条前半内 The (不明) of the pre-sent treaty 迄(平等原則)

第二十条ハ同上第十九条ト同様(擁護)

第二十一条ハ同上第二十条ト同文但シ第一項中 one year

トアルヲ six months トス(批准)
尚全文写シ二十部事務用トシテ十六日發送ス

637 昭和2年5月26日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

加スヘカラスト主張シタル結果総長ハ然ラハ considering
ノ次ニ favorably and equitably ノ三語ヲ加フルコトト
シタシト述ヘタリ尚総長ヨリ to consider favorably ノ
意味ヲ尋ネタルニ付本使ハ I am inclined to accept ノ意
味ナリト答ヘ置キタリ本日会谈ノ要領ハ大体右ノ通ニシテ
総長ヲシテ之以上歩ミ寄ラシムルコト差当リ不可能ト信ス
就テハ別電通第七五號御考量ノ上何分ノ儀御電示ヲ請フ
本電別電ト共ニ漢口、上海、広東へ転電シ広東ヨリ香港へ
暗送セシム

638 昭和2年7月9日 田中外務大臣より
在中国堀臨時代理公使宛(電報)

中国側の通商条約案への我方対案の即時提出
差控え方について

本省 7月9日後發

※ 通第一八号

貴電通第七四号及通第七七号ニ関シ

(一) 関稅事項無条件約款挿入ニ付テハ我方トシテハ絶対
ニ讓歩シ能ハサルコト往電通第一七号ノ通りニシテ又其後
支那政局ノ変化モアリ旁々今一応支那側ノ反省ヲ促サレ度

顧外交総長最惠国約款に関する談話表明につ
いて

北京 發

本省 5月26日後着

※ 通第七四号

貴電通第一七号ニ関シ

五月二十五日日本使外交総長ニ会見御訓示ノ趣旨ニ基キ篤ト
先方ノ反省ヲ促シタル処総長ハ依然從來ノ主張ヲ繰返シタル
ルニ付本使モ亦從來ノ趣旨ト御来示ノ各種ノ論法トヲ併用
シテ之ヲ論駁シタルモ先方ニ於テ容易ニ屈服セサリシニ付
本使ハ如何ニ所論ヲ重ヌルモ関稅事項ノ無条件最惠国約款
ハ我方ニ於テ絶対ニ讓歩シ難キ処ナル旨ヲ繰返ヘシタル処
総長ハ別電通第七五号ノ通述ヘタルニ付本使ハ即座ニ之ヲ
書取リタル上 considering ノ次ニ favorably ナル一語ヲ
加フレハ政府ノ同意ヲ得ルコトハ困難ナランモ本使ニ於テ
試ニ一応是ヲ取次クコトヲナスヘシト述ヘタル処総長ハ然
ラハ unconditional ノ次ニ equitable ノ二語ヲ加ヘ度シト
申出テタルニ付本使ハ右ハ本使ノ絶対ニ同意シ難キ処ナリ
ト述ヘ unconditional ト云フ以上ハ何等ノ文字ヲモ之ニ付

ク其ノ上方已ムヲ得サル場合ハ貴電通第七五号 consider-
ing ノ次ニ favorably and equitably ノ三語ヲ加ヘタル
モノヲ一応議事録ニ留メ他ノ事項ノ交渉ニ入ルコトトセラ
レ度

尚右議事録案中無条件均霑事項ヲ tariff rates トシタル支
那側ノ真意不明ナルモ若シ貴官カ往電通第一七号末段申進
メノ点ヲ「コミット」セラレタル結果支那側ニ於テ無条件
適用ノ範圍ヲ tariff rates ニ局限スルモ我方ニテ満足ス
ルモノト早合点シタルモノナリトセハ之ヲ其儘承認スルハ
後日ニ禍根ヲ貽スモノナルニ付右 tariff rates 支那側条
約案通リ tariff matters ト訂正セシメラレタシ

(二) 貴電通第七七号ノ貴見一応尤トハ存スルモ最近ノ形
勢ニ依レハ支那側モ恐ラク廢棄ノ過激手段ニハ出テサルヘ
ク又支那側条約案ハ甚タ不満足ノモノナルニ鑑ミ我方案ノ
即時提出ハ頗ル考慮ヲ要スルヤニ思考スルニ付少クモ差當
リ我方トシテハ個々ノ事項ニ付討議ヲ進ムル方針ニ拠ルコ
トト致度尚商議期間ノ延長ニ付テハ支那側ノ申出ヲ待チ一
応請訓セラレソノ上前回ノ例ニ倣ヒ措置セラルコトト致度

639 昭和2年7月25日

在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

改訂期限延長の中国側覚書に対し前例に倣い

応諾について

北京 発
本省 7月25日後着

※
通第七九号

(一) 往電通第七八号ニ関シ

改訂期間延期ニ関スル七月二十日付外交部覚書二十三日午後接到日支通商条約改訂期間ハ本年四月二十日双方公文ヲ交換シ原定ノ条約改訂期限満了ノ日ヨリ起算シ三ヶ月ノ延期ヲ声明シタル処現在右期間既ニ満了セルモ条約改訂ニ付尚繼續討論ヲ要スル問題アルニ付テハ右延期期間満了ノ日即チ七月二十日ヨリ起算シ更ニ三ヶ月間改定期間ヲ延長セシムコトヲ提議シ最後ニ前回延長ノ際ノ支那側公文末段ニ於ケルト同様ノ留保ヲ為シ居レリ

(二) 右ニ対シ二十五日当方ヨリ貴電通第一九号ノ趣旨ニ依リ前回ノ例ニ倣ヒ七月二十日付覚書ヲ以テ支那側提議ヲ応諾スルト共ニ前記支那側留保ニ対シテハ大正十五年十一月十日付覚書ニ於テ我方ノ為シタル留保ヲ依然維持スルモ

八 日中通商条約改訂交渉

シテ衷心同情スルモ無条件最惠国約款ヲ含ム通商条約締結カ支那ノ国際的地位ノ向上ニ何等累ヲ為スモノトハ思ハレヌ無条件最惠国約款ニ対スル日本ノ要求ハ自国経済保護上最小限度ノ要求ニシテ右要求貫徹ニ対シ安心ヲ与ヘラレサレハ外ノ問題ニ移ルコトヲ得スト述ヘタルニ王総長ハ然ラハ内明ク話ヲナスヘシト前提シ実ハ今日支那ニ於テ過去ニ支那ヲ禍セルモノハ最惠国約款ナリトノ意見甚タ広ク行ハレ居リ中ニハ相当根拠アルモノアルモ多クハ誤解ニ基クモノナリ而シテ彼等ハ互恵ハ大イニ可ナリト論ス併シナカラ私見ニ依レハ互恵コソ曲者ニシテ最惠国約款ハ相当ノ範圍ト条件ヲ以テスレハ有利ナルモノト云フヘク将来条約談判上之カ挿入ヲ認メサルヲ得ス殊ニ経済關係密接ナル日本トノ關係ニ於テ然リ乍併今自分ニ於テ斯ル意見ヲ持出セハ直ニ失脚スルコト火ヲ暗ルヨリ明カナリ物ニハ順序アリ先ツ最惠国約款ヲ認ムル前条約改正研究会内部並一般輿論ヲ教育スル要アリ

此ノ見地ヨリ自分カ曩ニ次長タリシ際顧総長ニ対シ条約全体ノ問題ニ付日支間ニ意見ヲ交換シツツ他方最惠国約款ニ関シ支那ノ輿論ヲ教育シ後再ヒ本問題ノ討議ニ帰ラムコト

ノナル旨通告シ置ケリ
委細郵報

640 昭和2年7月30日

在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

最惠国約款問題に関する王外交総長との会谈

について

北京 発
本省 7月30日前着

※
通第八〇号

(六三八文書)
貴電通第一八号ニ関シ

二十九日王外交総長ヨリ通商条約會議進捗方法ニ付評議ヲ希望シ来リタルニ付往訪本官ヨリ最惠国約款ニ関シ何等新方針ヲ有スルヤト質シタル処総長ハ從來条約改正ニ関スル支那側方針ハ自分モ一員タル条約改正研究会ニテ方針ヲ一定シ會議ニ臨ムモノナルヲ以テ自分ト前総長ト異リタル方針アル筈ナシ最惠国約款ニ付テ前総長ハ双方意見ヲ述ヘ尽くシ局面打開ノ方法ナキヤニ見受ケタルヲ以テ他ノ問題ニ移ラムコトヲ希望シタルカ自分モ之ニ同感ナリト答ヘタルニ付本官ハ不平等条約打破ニ関スル支那側ノ願望ハ日本ト

ヲ建策シ其結果顧総長ノ関税ニ関スル無条件最惠国約款ニ関スル声明ヲ議事録中ニ記載セムトスルニ至レル次第ナリ尚右輿論教育方法ノ一半トシテ近々発表スヘキカ国際法研究会(實在セサル架空ノモノナルカ外交部ニテ費用支出)ノ名ヲ以テ全支那ノ大都市ノ新聞ニ広告シ最惠国約款ト互恵ニ付論文ヲ募集スヘク其結果或ハ国際法研究会ノ名ニ依リ新聞紙上ニテ反駁スルコトトシ以テ輿論ヲ正道ニ導ク考ヘナリト内話シタリ茲ニ於テ本官ハ御訓令ニ基キ支那側ニ於テ関税ニ関スル無条件最惠国約款ニ関スル日本ノ希望達成ニ付安心ヲ与ヘラレハ他ノ問題ノ討議ニ移ルコト必スシモ差支ヘナキ日本政府ノ趣旨ナルカ将来最惠国約款ニ関スル総長ノ言ハ充分信頼シテ可ナリヤト質セルニ総長ハ自分ノ関スル限リハ充分日本側ノ希望ニ副フ様努力スヘシト述ヘタルニ付本官ヨリ顧前総長ノ関税ニ関スル無条件最惠国約款ノ声明中

(イ) 日本ハ前総長ノ提案セル favorably and equitably ナル語ヲ挿入スルニ異存ナク

(ロ) tariff rates ニテハ狭キニ過クルヲ以テ tariff matters トスヘキ旨提議シタルニ

王総長ハ貴見了解セリ只 rates ニテハ狭キモ matters ニ
テモ広キニ過クル感アルヲ以テ何等適當ナル字句考慮ノ上
追テ御返事致スヘシト答ヘタリ

641 昭和2年8月30日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

北京政府の交渉方法についての希望および南
京政府へ改訂交渉内容通知方承諾について

北京 発
本省 8月30日後着

※
通第八二号

八月二十九日外交部唐参事総長ノ命ニ依リ来訪シ総長ハ条
約改正交渉ヲ継続シタキ意見ナル処此ノ点ニ関スル貴公使
ノ御意見ヲ承リタク若シ商議続行ノコトトナルニ於テハ其
ノ促進ヲ計ル為從來ノ如ク半公式ノ會議ニ於テ両全權相対
峙シ議論ヲ上下スルニ於テハ議論百出シ効果少キ憾アルニ
付之ヲ予メ専門委員ヲシテ協議ヲ為サシメ或ル程度迄其ノ
進捗ヲ改メ見タル上ニテ之ヲ全權間ノ會議ニ掛クル方法ヲ
採リタシト述ヘタルニ付本使ハ商議継続ニハ賛意ヲ表シ又
交渉方法ニ付テハ主義上異存無キモ確答ハ一兩日間留保ス

九月二十一日午前条約改正會議第二〇回會議開催

一、先ツ本使ヨリ最惠国約款ニ関スル支那側声明ヲ議事録
ニ記載スル事ハ本年五月本使ト顧総長トノ間ニ大体話纏
リ其後王総長ト堀代理公使トノ交渉ニ依リ記載ス可キ字
句モ決定シタル次第ナル処(往電通第八一号参照)日本側
ハ支那側ノ希望ニ応シ互譲妥協ノ精神ヨリ最惠国約款以
外ノ問題ノ討議ニ移ルニ異議無キニ依リ右声明ノ議事録
記入ニ同意セラレ度キ旨改メテ提議シ王総長之ニ同意シ
二、今後ノ交渉方法ニ付テハ往電通第八三号ノ通決定シ
三、専門家会ニ関シテハ法権問題ニ付テハ重光、鄭両委員
間ノ会合ヲ継続スルト同時ニ法権以外ノ問題ニ就テハ重
光、唐在章両委員ノ間ニ討議セシムル事ニ決定セリ
上海、漢口、広東へ転電シ広東ヨリ香港へ暗送セシム

643 昭和2年10月17日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

条約改訂期限を更に三ヶ月延長することについて

この中国側の申出について

北京 発
本省 10月17日後着

ル旨ヲ答へ置キタリ惟フニ大局上右支那側ノ申出ニ応シ先
方提議ノ方法ニテ条約改正交渉ヲ進行セシムルコト然ルヘ
シト思考セラルルニ付反対ノ御訓令無キ限り右様取計フ積
リナリ

尚南京ニ於テ王寵惠等南京政府当局本使来訪ノ節(矢田総
領事同席)談偶々本件条約改正交渉ニ及ヒタル時本使ハ北
京ニ於ケル交渉続行ノ意向ナルモ右ハ勿論支那全体ヲ相手
トシテ之ヲ行フ精神ニ出テタルモノニテ其ノ内容ハ矢田総
領事ヲ経テ隨時南方政府ニ通知スルコトニ取計ヒ差支無シ
ト説明セル処彼等ハ之ヲ首肯シ進ンテ交渉ノ内容ヲ時々通
報アリタキ旨述ヘタルニ付本使之ヲ承諾シ置キタリ

642 昭和2年9月10日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

最惠国約款に関する中国側声明の議事録記入
を王外交総長同意について(第二十回會議
要領)

北京 発
本省 9月21日後着

※
通第八四号

※
通第八五号
十七日外交部陳秘書来訪支那政府ニ於テハ日支通商条約改
訂期限ヲ從來ノ方法ニ依リ十月二十日ヨリ更ニ三箇月間延
長シ度キ希望ヲ有スル処右ニ関スル日本政府ノ意向ヲ承知
シ度キ旨申出来レリ就テハ右期日前反対ノ御訓令ニ接セサ
ル限り從來ノ例ニ從ヒ承諾方取計フ事ト致スヘキニ付御諒
承ヲ請フ

644 昭和2年11月18日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛

通商条約改訂商議の停滞と条約廃棄の趨勢に
ついて

※
通機密第五二号
昭和二年十一月十八日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉

外務大臣男爵 田中 義一殿

日支通商条約改訂商議ニ関スル件

日支通商条約改訂商議ハ其期間ヲ延長スルコト三回ニ及ヒ
既ニ一年余ノ日子ヲ費セルニモ拘ラス其間殆ト何等ノ点ニ

付テモ日支双方ノ了解ヲ遂ケタルモノヲ見ス翻ツテ将来ヲ予想スルニ是又悲観セサル能ハス今後専門委員ノ商議ヲ続行シ各種ノ問題ニ互リ意見交換ヲ行フモ相互ノ了解ニ達スルコト甚タ困難ナルヤニ見受ケラル尤モ我方トシテハ表面能フ限り支那側ニ対シ本件商議ニ望ヲ繫キ之ニ対シ充分ノ誠意ヲ有スルカ如キ態度ヲ示スコト必要ナルヘク過般唐在章専門委員賜暇帰郷ノコトアルヤ我方ヨリ進ンテ是カ補充員ノ任命ヲ要請シタル如キ亦右ノ趣旨ニ出テタルモノナリ而シテ将来我方ノ採ルヘキ方針トシテハ關稅ノ問題ニ関シテハ既ニ一応之ヲ擱置シ他ノ問題ノ討議ニ移ルコトニ決定シタルヲ以テ致方ナキ次第ナルモ他ノ問題ニ付テハ商議ノ範圍ヲ成ルヘク狭クシ各事項ニ付逐次小キサミニ交渉シ行クコト然ル可シ蓋シ商議ヲ完了スルコト早ケレハ早キ丈條約全般ニ亘リ日支間ノ意見一致セサルコト明瞭トナルヲ以テ斯ル結果ヲ避クル為成ルヘク中間ノ行程ヲ長引カシムルニ努ムヘク差当リ航行權問題又ハ旅行營業權問題又ハ警察、課稅ノ各問題ノ何レカニ審議ヲ局限シ当分繼續シ度キ意向ナリ

乍然我方ニ於テ仮令右ノ如キ方法ニ依リ本件交渉ヲ続行ス

各国トノ現行條約ヲ順次廢棄シ而カモ各国トノ間ニ平等條約締結セラルルコトナクムハ結局無條約關係ノ国増加シ其ノ結果外支間ノ紛争益甚シキヲ加フルニ至ルヘキハ動カスヘカラサル大勢ナリ

右本件交渉ノ現状ニ顧ミ卑見御參考迄申進ス

645 昭和2年11月29日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

對外條約及び契約の効力に関する国民政府の
宣言について

第一三二七号

上海 發
本省 11月25日後着

国民政府ハ外交部長伍朝樞ノ名ヲ以テ内容左ノ通り二十三
日付對外宣言ヲ二十五日各支那新聞ニ發表シタルニ付交渉
署ニ質ネタルニ右ハ事實ニシテ數日中ニ各国側ニ対シ正式
ニ通告スル筈ナリトノ事ナリ

(一) 従来ノ支那政府カ外国ノ政府会社及個人ト締結シタル
不平等條約及協定ハ既ニ存在ノ理由無ク国民政府ハ最短
期間ニ之ヲ排除ス

ルモ其成功到底覺束ナシトノ意見ハ現ニ徐々ニ支那外交當局並條約委員會中ニ普及シ居ルノミナラス他方往電第一二一四号趙欣伯ノ談話ニモ見ユル如ク支那ハ各国トノ通商條約ヲ一率廢棄ノ方針ヲ以テ進ムヘキニ依リ其結果條約廢棄ノ宣言ヲ受ケタル諸國ハ該條約ト日支條約中ニ在ル廢棄條項ヲ比較ノ上其類似セル事實ヲ指摘シ必スヤ支那側措置ノ不公平ヲ難スルニ至ルヘク斯クテ公平ノ見地ヨリ日支條約亦同様廢棄セラルヘキニ非スヤトノ議論當然湧キ起ルヘシ將又現在支那各地ニ於ケル不当課稅強行其他條約上ノ權利ヲ蹂躪シツツアルノ事實ハ支那ノ輿論ハ既ニ不平等條約ノ廢止ヲ提唱スル政治論ヨリ一躍シテ斯ル條約ハ既ニ過去ノ事實トナレルモノトスル妄想ニ驅ラレツツアルコトヲ如實ニ物語ルモノナラスムハアラス右ノ事情ハ改訂商議ノ進捗セサル事實ト相俟テ日支條約廢棄ノ趨勢ヲ馴致スヘク廢棄ノ時日ハ未タ遽ニ予断ヲ許サスト雖諸般ノ事情ヨリ推シテ蓋シ遠キ将来ニ非サルヤニ思考セラルルニ付テハ政府ニ於テモ此点慎重御考量ノ上其ノ機ニ臨ミ善処セラルル様今日リ相当ノ腹ヲ極メ置クコト肝要ナルヤニ認メラル

尚支那側ニテハ完全ナル平等條約ヲ実施スル準備ナクシテ

(二) 滿期ノ條約及契約ハ当然無効トス

(三) 如何ナル支那官吏カ外国ノ政府、会社及個人ト為シタル如何ナル條約或ハ協定モ未タ国民政府ノ参与或ハ許可セサルモノハ完全ニ無効トス

(四) 支那ニ關係スル條約或ハ協定ニシテ未タ国民政府カ當事者ノ一方トシテ参加シ居ラサルモノハ支那ニ付拘束力アルモノト見做スヲ得ス

在支公使へ転電セリ

646 昭和2年12月(1)日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

通商条約改訂交渉の意義は無條約状態の回避
にありとの意見具申について

通第八八号

往電(六四二文書)
通第八四号ニ関シ

北京 發
本省 12月1日後着

現在支那ノ状態ヲ見ルニ政權南北ニ兩立スルモ現行條約ヲ廢棄シテ完全ナル平等條約ヲ締結セントスル点ニ於テハ南北共ニ一致スルニ対シ日本トシテハ到底完全ナル平等條約

ノ締結ニハ同意シ得ス且仮ニ平等条約ヲ締結スルトスルモ南北共ニ之ヲ実行スル能力ナキカ故ニ仮令其ノ孰レト条約ヲ締結スルモ結局無意味トナルヘク更ニ北京政府ノ勢力ハ東三省以外二三省ニ限ラレ又南方政府ハ屢々北京政府ノ締結セル条約ノ無効ヲ宣言スルカ故ニ仮令北京政府相手ニ条約ヲ締結スルモ支那全国ニ対シテ実行ヲ期待シ得サル次第ナリ從テ本件条約改訂交渉ハ畢竟徒勞ナルカ如キ感アルモ他方西白兩國ト支那トノ条約ハ既ニ廢棄セラレ今後他ノ諸國モ又之ト同様ノ立場トナルヘク事茲ニ至ラハ日本ノミ独リ永久ニ支那ト特殊ノ条約關係ヲ維持スル事困難トナルヘキ処唯英米等ニ先立チテ日本カ無条約状態ニアル事ハ極力之ヲ避クル必要アリ何レノ途我ヨリ進ンテ条約改正ヲ不成功ニ至ラシムル如キ態度ニ出ツルハ不利益ナルヘキカ故ニ仮令締結ノ見込無キニセヨ外部殊ニ支那ニ対シテハ締結ノ誠意アル事ヲ示ス事必要ナルヘク今後ノ商議再開又右ノ趣旨ニ基クモノニシテ結局不成功ナル事ヲ見越シ其ノ道行キ迄ニ適當ノ手段ヲ講セントスルモノナル次第ナリ此点ハ夙ニ本省ニ於テモ御諒解ノ事ト信スルモ為念

(二) 商議ノ結果ニ関シテハ現在ノ政局ニ鑑ミ当方ニ於テモ大ナル期待ヲ掛ケ居ラサル次第ナルモ本件申入レヲ為ス間接ノ効果トシテ考慮スヘキハ支那カ我申入レヲ拒絶セル場合ハ勿論一旦商議ニ入りタル上ハ支那トシテ一種ノ責任ヲ生シ之カ未了ノ儘現行条約廢棄ノ暴挙ニ出ツルコトヲ躊躇セシムヘク現在法権及其ノ他ノ事項ノ専門委員会カ進行ヲ抄シカラス停頓ニ陥ル危険鮮カラサル情勢ニ鑑ミ互惠税率商議ノ申入レハ支那側ノ無謀ノ措置ヲ牽制スル方便トシテモ考慮ノ価値アリト信ス

(三) 我方トシテハ民国十八年ニ至リ何等ノ留保ナシニ支那側ノ関稅自主回復ヲ当然視スルモノニアラサルコトヲ明カニスル手段トシテ此際暫行税率ノ商議ヲモ同時ニ申入ルルコト然ルヘキモ實際問題トシテハ商議ニ入ラハ差当り専ラ互惠税率ノ成立ニ主力ヲ注クコトト致度シ

(四) 商議ノ方針トシテハ日支貿易カ根本ニ於テ互惠ノ實質ヲ欠キ居ルコトニ鑑ミ出来得ヘクハ主義上ノ問題ニ触ルルコトヲ避ケ商議ノ劈頭ヨリ我方希望ノ税率ヲ突き付け各品目ニ付討議ヲ進ムルコト有利ト信ス

(五) 我方ヨリ提出スヘキ互惠税率ノ基礎案トシテハ昨年

647 昭和2年12月29日 在中國芳沢公使より 田中外務大臣宛(電報)
互惠税率および暫行税率の商議開始の申入の 意義並びにその申入れの可否請訓について

北京 発
本省 12月22日後着

※通第九〇号

(一) 日支互惠税率ノ問題ニ関シテハ関稅會議ニ於ケル支那側ノ言明及日支交換公文ノ経緯上通商条約改訂談判ニ於テ顧外交総長本使ニ対シ互惠税率及暫行税率ノ協議ヲ開始スルコトニ対シ異議ナキコトヲ言明セル次第ハ御承知ノ通ナルカ民国十八年ヲ期限トスル支那側ノ関稅自主權回復計畫ニ対シテハ累次ノ報告ニテ御既承ノ通現在ニ於ケル英米等ノ消極的態度ニ徴スレハ各國間ニ有効ナル措置手段ヲ協定スル望ナキヤモ計リ難ク支那側トシテハ各國ノ態度如何ニ拘ラス正当ナル関稅會議ノ收獲トシテ本件実施ノ舉ニ出ツヘク果シテ然ラハ日本トシテハ互惠税率ニ対スル努力ヲ等閑ニ付スル能ハサルモノト思考セラルルニ付目下横竹商務參事官ノ当地滞在ヲ機會トシ支那側ニ対シ互惠及暫行税率ノ商議ヲ開始シ度キ旨申入レテハ如何カト存ス

東京ニ於テ關係三省専門家ノ間ニ起草セラレタル互惠税率案ト関稅會議當時各國専門委員間ノ共同案トシテ成立セル暫行差等税率ノ二種ヲ想像シ得ル処前者カ前記ニ基キ一個ノ私案ニ止マルニ反シ後者ハ其成立ノ歴史ヨリ見テ充分我利益ヲ顧慮セル骨組ノ上ニ各國ノ必要トスル修正ヲ加ヘタルモノニテ又支那側ニ於テモ相当考究ヲ得タルコトト思考セラルルニ付更ニ新ナル修正ヲ加ヘタル上之ヲ我互惠税率ノ基礎案トシテ利用スルニ於テハ我ノ公正ナル立場ヲ明カニスルヲ得テ好都合ト信ス
就テハ右至急御詮議ニ付何分ノ儀御回訓ヲ請フ

648 昭和2年12月29日 在中國芳沢公使より 田中外務大臣宛(電報)

中国側の一方的条約廢棄問題につき各国共同 提議したい旨の英本國政府の意向について

北京 発
本省 12月29日後着

第一三九五号(極秘)
往電第一三六七号ニ関シ

十二月二十七日英國公使訪問ノ際本件英國政府訓電ノ内容

詳細ニ承ルコトヲ得ヘキヤト問ヒタル処同公使ハ貴公使ノコトナレハ右訓電ヲ御覽ニ入ルヘシトテ本使ニ渡シタルニ付之ヲ一読シタルカ右ニ依レハ英国政府ハ曩ノ首席公使ノ提議セル意味合ノ協同電稟案ノ發送ニハ主義トシテ異存ナキモ右実行ニ先チ先ツ最近伊国公使ニ依リ發議セラレタル支那ノ一方的條約廢棄問題ニ對スル意見ノ如ク問題ヲ成ルヘク実行シ得ヘキ範圍ニ止メ若シ右ノ案ニ各国ノ一致ヲ得ルトキハ首席公使ノ提案ノ如キ措置ヲ徐々ニ進行スルコトニシ度ク右ノ見地ニ基キ支那ト條約廢棄問題ニ直面スル各
 国ハ別電第一三九六号ノ趣旨^(省略)ニテ支那ニ對シ強硬ナル提議ヲ發スルコトニ致シ度ク若シ各国關係國ニ於テ支那側ヨリ條約廢棄ヲ受クル場合右ノ如キ同様ノ措置ヲ執ルコトニ同意シタリトセハ各国ハ白耳義條約廢棄ニ依リテ生シタル状態ヲ改善セラルルコトナルヘク同時ニ各国ヲ正当ノ立場ニ立タシメ北京其他ノ支那政府ヲ不法ノ地位ニ置クコトトナルヘシト云フノ趣旨ナリ本使ハ右電訓ヲ一読シタル後英國政府ノ意見ハ大体ニ於テ合理的ト思考セラルル次第ナルカ近ク開カルヘキ外交団會議ノ後五国公使會議ニ於テ右電訓ヲ披露セラレテハ如何ト述ヘタル処同公使ハ本国政府ノ

電訓ニハ九国トアルモ実ハ来年ハ丁抹條約モ期限満了ノ筈ニテ而モ丁抹ハ九国條約ノ調印國ニアラス

且條約廢棄ノ問題ニ付テハ華府條約調印國以外ノ各国モ特ニ利害關係ヲ有スルヲ以テ寧ロ日英米伊五国公使ノ外首席公使ヲ加ヘタル六国公使會議ニ於テ先ツ足場ヲ堅メ然ル後外交団全体ノ會議ニ付議スルコト得策カト思ハルルカ只自分ノ見ル処ヲ以テスルニ米國ノミハ少シク懸念ニ堪ヘス殊ニ國際連盟ノ一員ニモ非スト述ヘタルニ付本使ハ過日米國公使ト会见シタル際同公使ハ米國ハ税率ノ問題ニ付テハ場合ニ依リ犠牲ヲ払フコト差支ナキモ治外法權撤廢ノ問題ニ付テハ犠牲ヲ払ヒ難シト述ヘ居タル位ナレハ仮令同國條約ノ満期ハ遠キ將來ニアルニセヨ他國ノ治外法權撤廢問題ヲ包含セル條約廢棄問題ニ無関心ナル能ハサルヘキカ故ニ此ノ種ノ討議ニ對シ必スシモ列國トノ協調ヲ無視スル次第ニモアラサルヘシト述ヘタル処同公使ハ或ハ然ラム果シテ然リトセハ外交団會議開催ニ先タチ先ツ六国公使會議ヲ開クコトニシテハ如何ト述ヘタルニ付本使ハ至極結構ナリ貴公使ヨリ明朝首席公使等六国公使會議開催方提議セラレタシト述ヘタルニ同公使ハ直ニ之ヲ承諾シタルカ二十八日同

公使ヨリ首席公使ト会谈ノ結果首席公使ハ三十日六国公使會議開催方承諾セル旨二十八日夜通知越スト同時ニ同國政府及同公使両者ノ意見ヲ包含セル「ステートメント」ヲ送り越セルニ付其ノ内ヨリ別電ヲ抽出セル次第ナリ以上

649 昭和2年12月30日 在中国芳沢公使より
 田中外務大臣宛(電報)

英国の条約廢棄問題に関する对中国共同提議
 案をめぐる六国公使會議について

別電 四月三十日着在中国芳沢公使より田中外務大臣

宛第一四〇三号

条約廢棄問題に関する对中国共同提議修正案

北京 発

本省 12月30日後着

第一四〇二号(極秘)

往電第一三九五号ニ関シ

十二月三十日六国公使會議ヲ開キ先ツ首席公使ヨリ會議開催ノ事情ヲ述ヘ英國公使ヨリ右往電末段ニ記載セル「ステイトメント」(本「ステイトメント」ハ郵送ス)ノ趣旨ヲ説明シタル処米國公使ハ米國ハ國際連盟ノ一員ニアラサル關係上本案ニハ如何ト思ハルル点無之ニアラサルモ英國ト

シテハ或ハ協調スルコトナキニアラサルヘシト述ヘ首席公使ハ國際連盟ニ提出スルコトニ付テハ一応ノ考慮ヲ要スト思ハルル節アリ何トナレハ若シ支那カ英國公使ノ提案ノ如キ通告ニ接シタル場合然ラハ國際連盟ニ提出スヘシト申出テ連盟ニ付議セラルル時ハ利害關係薄キ諸國モ干シ支那側委員ハ得意ニ宣伝シ却テ厄介ナル結果ヲ生スルヤモ測リ難シト述ヘタルニ付(万県事件ニ付朱兆華カ氣炎ヲ吐キタルコトアリ)本使ハ右様ノ場合ニハ少クトモ條約ノ廢棄ヲ遷延セシムルコトヲ得ヘシト述ヘタルカ各国公使意見交換ノ結果結局常設國際司法裁判所ニ提出スルコトニノミ限り連盟規約第十九条ヲ引用スルコト削除スルコトニ纏マリ其結果往電第一三九六号ヲ別電第一四〇三号ノ通り修正シ來春早々外交団會議ヲ開キテ之ヲ付議スヘク西班牙ハ既ニ自己ノ意見ニテ多少ノ措置ヲ執リタルモ若シ本案ニ同意スルニ於テハ各国ハ別電第一四〇四号ノ通告ヲ北京政府ニ送リテ西班牙ノ態度ヲ支持スルコト若シ又西班牙カ之ニ同意セサル場合ニハ其好ム処ニ委セテ二期限満了ニ至ルヘキ葡萄牙、伊國、丁抹等ノ政府(白耳義ハ自己ノ裁量ヲ以テ進行シ二十九日第一回専門委員會ヲ開キタル由)ニ於テ之ニ同

意スル場合ニハ前記同様ノ措置ヲ執ルコトニ協定シタリ

(訳 電)

Peking,

Rec'd, Dec. 30th, p. m. 1927.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 1403 (gokuh)

⁽¹⁾ I entirely contest your right to denounce my treaty in the way you have done, even assuming that you are to be regarded as the other government, party to the treaty.

But I do not propose to discuss with you the legal question whether you are entitled to denounce it, as there is nothing in the treaty which gives you the right to take such action.

Furthermore you have put yourself out of court by refusing, in the Belgian case, to have the policy decided by the Permanent Court of International Justice at the Hague, although you had a short time

before accepted the optional clause of the Protocol of the Court which covers the case.

⁽²⁾ I am perfectly willing that you should have the question of your right to denounce it decided by the Permanent Court, but unless, and until you have obtained a decision in your favour I shall continue to regard my treaty as in force.

This does not imply that my Government is opposed to negotiating a revision of the treaty, but it must remain understood that if meantime you do anything which is inconsistent with it I reserve the right to protect my interests and these of my countrymen by such means as I may think fit.

Yoshizawa.

九 中国関税問題

650 昭和2年1月(4)日

在上海矢田総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

二分五厘付加税への日本の反対および英国覚書に関する陳友仁外交部長の見解について

上海

発

本省 1月4日前着

第三号(極秘)

佐分利ヨリ

漢口ニ於テ得タル情報中御参考トナル可キ諸点左ノ通

一、陳友仁ハ華府付加税ハ日本ノ反対アル以上実施セラレサル事ト思考スルモ万一北方ニ於テ之カ実施ヲ強行スルカ如キ事アラハ自分一箇トシテハ当地海関収入全部抑留スルノ非常手段ニ出ツル積リナリト語レリ陳カ日本ニ感謝セル理由ハ極メテ簡單ニシテ日本カ華府付加税実施ニ反対セル理由ノ如何ナルカハ全然問ハスシテ日本ノ反対ニ依リテ実施カ阻止セラルル實際的效果ノミニ着眼セルモノナリ從テ若シ日本カ関税会議再開ヲ提議シ之カ実施

ヲ為ス事トスレハ此点ニ付テ対日感情ハ消滅スル訳ナリ

⁽²⁾ 二、陳ハ前電所報英国覚書ニ対シ米国情務卿ニ發送セル十二月三十一日發電文写シヲ小官ニ手交シ日本政府ニ対シテモ何等カ電報ヲ發スルノ可否ニ付意見ヲ求メタルヲ以テ本件ニ関スル陳ノ意見ハ日本政府ニ通スル様取計ヒ置キタレハ特ニ發電ノ必要ナカルヘシト答ヘ置キタリ三十一日英国総領事ハ小官ニ対シ南方ニ好感ヲ与フヘシト予期セラレタル覚書カ却テ反対ノ結果ヲ来シ対英感情一層悪化シタルニ付一日モ速ニ「オメリー」参事官(「タイチマン」同伴ノ答)カ来漢シ陳トノ談話ヲ再開セサルヘカラスト言ヘリ小官ノ感想ニ抛レハ陳ハ著シク排英的ニシテ(米国総領事モ全然同意見)英国側カ徹底的讓歩ノ態度ニ出テサル限り妥協ハ余程困難ト観測セラルル処英國側ニ於テハ何トカ談ヲ纏メ局面ノ展開セン事ヲ切望シ居ルヲ以テ相当ノ努力ヲナスヘシト推測セラル目下南方ノ最モ困難セルハ財政ニシテ英國モ此弱点ニ着目シ居ル